

# 教育研究業績書

2018年11月08日

所属：建築学科

資格：教授

氏名：鈴木 利友

研究分野	研究内容のキーワード
建築計画, 建築設計	視覚, 歩行, 集団, 探索行動, 言語, 持続可能性, 傾斜地, 曲線
学位	最終学歴
博士(工学), 修士(工学), 学士(工学)	京都大学大学院 工学研究科 生活空間学専攻 博士後期課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. 講義冒頭における小テストの実施	2013年04月～	講義の冒頭に、前回の内容を踏まえた、短時間の小テストを課している。前回の講義内容の定着をはかるとともに、遅れずに授業に出席するよう学生に促す効果も果たしている。また、小テストを課している間に出席確認ができるので、授業時間の有効活用にもつながる。
2. 「建築数学」における配付プリントによる講義と宿題を組み合わせた教育実践	2013年04月～	「建築数学」においては、学生が板書を全部書き写す時間を節約し、密度の高い講義を行うため、テキストを毎回プリントで配付している。テキストは市販で1冊にまとまった適切なものがないため、独自に作成している。授業の最後に、テキストの練習問題の一部を指定して宿題とし、次回の授業までに解いて提出することを義務付けている。
3. 群集流動の計測方法を体験的に学習できる授業の実践	2008年06月～	群集流動を数量的に評価する上で重要な指標である群集密度、流動係数、歩行速度を理解するため、1㎡の中に何人入るか調べたり、受講生全員が出入口、階段を通過するのにかかる時間、平面や階段における時間を計測する、体験型の授業を展開している。計測された群集密度、流動係数、歩行速度、および一般的に知られている数値との比較は、次回の講義において解説している。
4. 図学の授業における、視覚的に分かりやすい板書方法の実践	2008年06月～	図学の授業においては、ホワイトボード上に直接プロジェクターでテキスト等を映写し、その上に黒、赤、青のほか緑、橙のマーカーも活用して解説を行っている。これにより、図が重なって理解しがたくなりやすい図学の解法を、視覚的に理解できるよう配慮している。
5. CADの授業におけるマニュアルの整備	2008年05月～	CADの授業においては、マニュアルを用意することにより、遅れた学生もマニュアルを追っていけば理解できるようになり、授業のペースを上げられるようになった。復習用の資料や、欠席した学生のフォローにも活用している。
6. 最新の研究成果の授業内容への反映	2008年05月～	講義内容に、最近の研究成果を取り入れるように毎年見直している。場合によっては研究論文等も紹介することにより、学生が早いうちに研究に対する興味、関心を持てるようにしている。

2 作成した教科書、教材		
1. 武庫川女子大学建築学科2年前期「フィールドワークⅡA」	2018年05月	「詩仙堂、曼殊院、円通寺見学」の計画書、説明書を作成した。
2. 武庫川女子大学建築学科1年前期「フィールドワークⅠA」	2018年04月	「明治村見学」の計画書、説明書を作成した。
3. 武庫川女子大学建築学科2年後期「フィールドワークⅡB」	2017年10月～11月	「京都国立近代美術館、岡崎公園、京都国立博物館見学」「龍谷ミュージアム見学」の計画書、説明書を作成した。
4. 武庫川女子大学建築学科2年後期「建築設計演習Ⅱ」	2017年10月～	課題2「美術館」の課題説明書、課題説明スライド、補助教材を作成した。
5. 武庫川女子大学建築学科1年後期「図学・情報基礎演習Ⅱ」	2017年09月～12月	平行投影、透視投影、陰影、CADを活用した効果的な図面の表現、切断、相貫にかかわるレジメ、教材、課題を作成した。
6. 武庫川女子大学建築学科1年前期「フィールドワークⅠA」	2017年04月～06月	「明治村見学」「未生流笹岡家元邸見学」の計画書、説明書を作成した。
7. 武庫川女子大学建築学科1年後期「空間表現演習Ⅱ」	2016年11月	課題「共通寸法による構成」の課題説明書、課題説明スライドを作成した。
8. 武庫川女子大学大学院建築学専攻修士課程2年後期「フィールドワークⅥ」	2016年11月	「桂離宮見学」「修学院離宮見学」の計画書、説明書を作成した。
9. 武庫川女子大学建築学科2年後期「CAD・CG応用演習Ⅱ」	2016年10月～2018年01月	「さまざまなデータの活用と、それに基づく敷地、周辺建物データの作成」「風景写真との合成を通じた案のスタディ」「さまざまな形態や質感をもつ建築空間のモデリング」「さまざまな形態や質感をもつ建築空間のプレゼンテーション」「建物と周囲の環境が調和した風景のデザイン」「光源設定や夜景も含めたレンダリングの探求と、それによる風景のプレゼンテーション」「建物と周囲の環境が調和した風景のプレゼンテーション」にかかわるレジメを作成した。

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<p>10. 武庫川女子大学建築学科 2 年後期 「フィールドワーク II B」</p> <p>11. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワーク II A」</p> <p>12. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「図学・情報基礎演習 I」</p> <p>13. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「空間表現演習 I」</p> <p>14. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「フィールドワーク I A」</p> <p>15. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワーク II B」</p> <p>16. 武庫川女子大学建築学科 2 年後期 「建築設計演習 II」</p> <p>17. 武庫川女子大学大学院建築学専攻修士課程 1 年前期 「フィールドワーク VA」</p> <p>18. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワーク II A」</p> <p>19. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「フィールドワーク I A」</p> <p>20. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワーク II B」</p> <p>21. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワーク II A」</p> <p>22. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「空間表現演習 I」</p> <p>23. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「建築設計計画 I」</p> <p>24. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「フィールドワーク I A」</p> <p>25. 武庫川女子大学建築学科 2 年後期 「CAD・CG 応用演習 II」</p> <p>26. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「建築設計演習 I」</p> <p>27. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワーク II A」</p> <p>28. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「CAD・CG 応用演習 I」</p> <p>29. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「空間表現演習 I」</p> <p>30. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「建築数学」</p> <p>31. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「フィールドワーク I A」</p> <p>32. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「図学・情報基礎演習 I」</p> <p>33. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「CAD・CG 応用演習 II」</p> <p>34. 武庫川女子大学建築学科 2 年後期 「フィールドワーク II B」</p> <p>35. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「空間表現基礎演習」</p> <p>36. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「フィールドワーク I A」</p> <p>37. 武庫川女子大学建築学科 2 年後期 「フィールドワーク II B」</p>	<p>2016年09月～12月</p> <p>2016年05月～2017年05月</p> <p>2016年05月～</p> <p>2016年05月～</p> <p>2016年04月～07月</p> <p>2015年09月～10月</p> <p>2015年09月～2016年11月</p> <p>2015年07月～</p> <p>2015年06月</p> <p>2015年04月～07月</p> <p>2014年10月</p> <p>2014年05月</p> <p>2014年05月～06月</p> <p>2014年04月～</p> <p>2014年04月～06月</p> <p>2013年09月～2015年11月</p> <p>2013年06月～07月</p> <p>2013年06月～07月</p> <p>2013年06月～2015年07月</p> <p>2013年05月～06月</p> <p>2013年04月～</p> <p>2013年04月～06月</p> <p>2013年04月～2015年07月</p> <p>2012年10月～11月</p> <p>2012年10月～2013年10月</p> <p>2012年05月～06月</p> <p>2012年04月～06月</p> <p>2011年10月</p>	<p>「南越特別支援学校、サンドーム福井、草の実保育園見学」「神戸海星女子学院マリア幼稚園見学」「京都国立博物館、岡崎公園、京都国立近代美術館見学」「龍谷ミュージアム見学」「園城寺光浄院・勸学院見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「高桐院、円通寺、詩仙堂見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>図学の基礎、CADの初歩にかかわるレジメ、教材、課題、小テストを作成した。</p> <p>課題「学術研究交流館の実測と図面化」の課題説明書を作成した。</p> <p>「明治村見学」「未生流笹岡家元邸見学」「平面の構成による設計 CG透視図の作成」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「南越特別支援学校、サンドーム福井、草の実保育園見学」「曼殊院、園城寺勸学院・光浄院見学」「建築設計演習II課題2敷地(岡崎公園)、京都国立近代美術館見学」「龍谷ミュージアム見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>課題1「幼稚園」課題2「美術館」の課題説明書、課題説明スライド、補助教材を作成した。</p> <p>一級建築士模擬試験 学科I(計画)を作成した。</p> <p>「関西外大インターナショナル・コミュニケーションセンター他見学」「清荒神清澄寺史料館、詩仙堂見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「明治村見学」「未生流笹岡家元邸見学」「八坂神社、産寧坂伝建地区、清水寺見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「居初氏庭園、園城寺光浄院見学」「建築設計演習II課題2敷地(岡崎公園)、京都国立近代美術館見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「高桐院、円通寺、詩仙堂見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>課題「基本立体による構成」「学術研究交流館の実測と図面化」の課題説明書を作成した。</p> <p>待ち行列理論、曲線の数理にかかわる配布資料、小テストを作成した。</p> <p>「明治村見学」「未生流笹岡家元邸見学」「清水寺、産寧坂、上賀茂神社、社家町(伝建地区)見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「CADを活用した図面の作成」「比較的複雑な平面形状をもつ建築空間のモデリング」「さまざまなデータの活用」「さまざまな形態や質感をもつ建築空間のモデリング」にかかわるレジメを作成した。</p> <p>課題3「学生会館」の課題説明書、課題説明スライド、補助教材等を作成した。</p> <p>「灘浜スポーツガーデンクラブハウス、大徳寺高桐院、南禅寺見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「動画作成の演習」「テクスチャと添景の演習」「小規模なRC建築のモデリング」にかかわるレジメを作成した。</p> <p>課題「学術研究交流館の実測と図面化」「甲子園会館の実測と図面化」の課題説明書を作成した。</p> <p>15回分の授業で使用するテキスト、小テスト等を作成した。</p> <p>「明治村見学」「宮川町(いけばな)、産寧坂、清水寺見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>情報倫理、スタジオの利用方法、Word、PowerPoint、Excel、画像処理、印刷の基礎、図学の基礎にかかわるレジメ、教材、課題、小テストを作成した。</p> <p>「質感豊かな透視図の作成」にかかわるレジメを作成した。</p> <p>「建築設計演習II課題2敷地(岡崎公園)、京都国立近代美術館」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>課題「基本立体による構成」「学術研究交流館の実測と図面化」の課題説明書を作成した。</p> <p>「明治村見学」「伏見の町家、景観整備地区、いけばな見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「金地院、建築設計演習II課題2敷地(岡崎公園)、京都国立近代美術館」の計画書、説明書を作成した。</p>

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
<p>38. 武庫川女子大学建築学科 1 年後期 「空間表現応用演習」</p> <p>39. 武庫川女子大学建築学科 3 年後期 「建築設計計画Ⅳ」</p> <p>40. 兵庫県立西宮今津高等学校模擬授業 「建築の研究について」</p> <p>41. 武庫川女子大学建築学科 3 年前期 「建築設計計画Ⅲ」</p> <p>42. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワークⅡA」</p> <p>43. 武庫川女子大学建築学科 4 年前期 「フィールドワークⅣ」</p> <p>44. 武庫川女子大学建築学科 1 年後期 「フィールドワークⅠB」</p> <p>45. 武庫川女子大学建築学科 1 年後期 「空間表現応用演習」</p> <p>46. 武庫川女子大学建築学科 2 年後期 「CAD・CG 応用演習Ⅰ」</p> <p>47. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワークⅡA」</p> <p>48. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「建築設計計画Ⅰ」</p> <p>49. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「フィールドワークⅠA」</p> <p>50. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワークⅡB」</p> <p>51. 武庫川女子大学建築学科 1 年後期 「フィールドワークⅠB」</p> <p>52. 武庫川女子大学建築学科 1 年後期 「空間表現応用演習」</p> <p>53. 武庫川女子大学建築学科 1 年後期 「図学・CAD 基礎演習Ⅱ」</p> <p>54. 武庫川女子大学大学院建築学専攻修士課程 1 年後期 「建築計画論Ⅱ」</p> <p>55. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「建築設計演習Ⅰ」</p> <p>56. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「図学・CAD 基礎演習Ⅰ」</p> <p>57. 武庫川女子大学建築学科 3 年前期 「フィールドワークⅢA」</p> <p>58. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「建築情報基礎演習」</p> <p>59. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワークⅡA」</p> <p>60. 武庫川女子大学建築学科 1 年前期 「空間表現基礎演習」</p> <p>61. 武庫川女子大学建築学科 1 年後期 「フィールドワークⅠB」</p> <p>62. 武庫川女子大学建築学科 1 年後期 「空間表現応用演習」</p> <p>63. 武庫川女子大学建築学科 2 年後期 「CAD・CG 演習Ⅳ」</p> <p>64. 武庫川女子大学建築学科 3 年後期 「建築計画Ⅴ」</p> <p>65. 武庫川女子大学建築学科 3 年前期 「建築計画Ⅳ」</p> <p>66. 武庫川女子大学建築学科 2 年前期 「フィールドワークⅡA」</p>	<p>2011年09月～10月</p> <p>2011年09月～</p> <p>2011年07月12日</p> <p>2011年06月～</p> <p>2011年06月～07月</p> <p>2011年05月</p> <p>2010年11月</p> <p>2010年09月～10月</p> <p>2010年06月～2012年07月</p> <p>2010年05月～06月</p> <p>2010年04月～</p> <p>2010年04月～06月</p> <p>2009年10月～2010年10月</p> <p>2009年10月</p> <p>2009年09月～10月</p> <p>2009年09月～2011年10月</p> <p>2009年09月～2017年11月</p> <p>2009年06月～2011年07月</p> <p>2009年05月～2011年06月</p> <p>2009年05月</p> <p>2009年04月～2012年05月</p> <p>2009年04月～07月</p> <p>2009年04月～2012年06月</p> <p>2008年11月</p> <p>2008年10月～2009年01月</p> <p>2008年10月～2009年12月</p> <p>2008年09月～2010年09月</p> <p>2008年07月～2010年06月</p> <p>2008年06月</p>	<p>課題「甲子園会館の透視図」「実測と図面化」の課題説明書を作成した。</p> <p>防災評定、避難安全検証法、研究手法等にかかわる講義スライド、配布資料、小テスト等を作成した。</p> <p>建築学と諸学との関係、建築設計における真・善・美、強・用・美、日本と欧米の大学と社会、資格制度の違い、および計画系の諸研究を説明するための講義スライドを作成した。</p> <p>群集流動、集団行動の実験とシミュレーションにかかわる講義スライド、配布資料、小テスト等を作成した。</p> <p>「照明計画参考事例見学」「高桐院・園城寺見学」「草の実保育園、サンドーム福井、南越養護学校他見学」「二条城、無鄰菴見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「S邸（古民家改修現場）見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「追手門学院大学将軍山会館、東洋食品工業短期大学新体育館、灘浜スポーツガーデンクラブハウス見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>課題「光と陰影」「甲子園会館の透視図」「対立による調和」の課題説明書を作成した。</p> <p>「動画による建築空間のプレゼンテーション」「CADを活用した仮想空間の構築」にかかわるレジメ、教材を作成した。</p> <p>「照明計画参考事例見学」「草の実保育園、サンドーム福井、南越養護学校見学」「高桐院・園城寺見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>建築の寸法と規模、居住空間、知覚、図式と行動にかかわる講義スライド、配布資料、小テスト等を作成した。</p> <p>「博物館明治村見学」「京町家新築現場、改修完成事例、旧有栖川宮邸、平安女学院明治館見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「建築設計演習II課題2敷地（岡崎公園）ほか見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「大阪信愛女学院聖堂見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>課題「測定の図面化」「甲子園会館の透視図」の課題説明書を作成した。</p> <p>透視投影、平行投影、陰影、切断、相貫、画像処理、印刷の基礎にかかわるレジメ、教材、課題、小テストを作成した。</p> <p>空間と人間行動の関係を探る実験的研究にかかわる講義スライド、配布資料を作成した。</p> <p>課題3「空間の連結・均質空間・空間の階層化（幼稚園）」の課題説明書、補助教材等を作成した。</p> <p>図学の基礎、CADの初歩にかかわるレジメ、教材、課題、小テストを作成した。</p> <p>「箱木家住宅・六甲山荘見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>情報倫理、スタジオの利用方法、Word、PowerPoint、Excelの基礎にかかわるレジメ、課題を作成した。</p> <p>「建築設計演習I課題参考建物見学（篠山）」「高桐院・詩仙堂・円通寺見学」「無鄰菴、曼殊院」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>「平面による構成」「透視体と鏡面による構成」「共通寸法による構成」「曲面と直線による構成」「基本立体による構成」「多面体による構成」の課題説明書を作成した。</p> <p>「神戸改革派神学校、灘浜サイエンススクエア、灘浜スポーツゾーンクラブハウス見学」「司馬遼太郎記念館、大阪府立近つ飛鳥博物館、大阪府立狭山池博物館見学」の計画書、説明書を作成した。</p> <p>課題「光と陰影」「小規模建築空間の設計」の課題説明書を作成した。</p> <p>「質感豊かな透視図の作成」にかかわるレジメ、教材を作成した。</p> <p>防災評定、避難安全検証法、探索歩行と経路学習、研究手法等にかかわる講義スライド、配布資料を作成した。</p> <p>群集流動、集団行動の実験とシミュレーションにかかわる講義スライド、配布資料を作成した。</p> <p>「廣誠院・詩仙堂・円通寺見学」「草の実保育園・南越養護学校他見学」の計画書、説明書を作成した。</p>

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
67. 武庫川女子大学特別学期全学プログラム「眼と空間 一人はどこを見て歩くのか」	2008年02月～2010年02月	左記テーマにかかわる講義スライド、配布資料を作成した。
68. 武庫川女子大学建築学科2年後期「建築設計演習Ⅱ」	2007年10月～2014年11月	課題2「美術館」の課題説明書、課題説明スライド、補助教材を作成した。
69. 武庫川女子大学建築学科1年後期「空間表現応用演習」	2007年10月～2008年01月	課題「透視図と平面図」「小規模建築空間の設計」の課題説明書を作成した。
70. 武庫川女子大学建築学科2年前期「CAD・CG演習Ⅲ」	2007年06月～2008年07月	CADを活用した仮想空間の構築、動画による建築空間のプレゼンテーションにかかわるレジメ、教材を作成した。
71. 武庫川女子大学建築学科2年前期「フィールドワークⅡA」	2007年06月	「三木家住宅、箱木家住宅および幼稚園課題敷地見学」の計画書、説明書を作成した。
72. 武庫川女子大学建築学科1年前期「フィールドワークⅠA」	2007年06月	「司馬遼太郎記念館、大阪府立近つ飛鳥博物館、大阪府立狭山池博物館見学」の計画書、説明書を作成した。
73. 武庫川女子大学建築学科1年前期「情報活用の基礎」	2007年04月～2008年05月	情報倫理、スタジオの利用方法、Word、PowerPoint、Excelの基礎にかかわるレジメ、教材、課題を作成した。
74. 武庫川女子大学建築学科2年前期「建築計画Ⅱ」	2007年04月～2009年06月	居住空間、空間の知覚と人間行動にかかわる講義スライド、配布資料を作成した。
75. 武庫川女子大学建築学科1年後期「建築計画Ⅰ」	2006年10月～2008年11月	建築の寸法と規模にかかわる講義スライド、配布資料を作成した。
76. 武庫川女子大学大学院建築学専攻修士課程1年「建築計画学特論Ⅱ」	2006年09月～2007年10月	群集歩行、避難行動の特性およびそのシミュレーション、視覚と歩行行動にかかわる講義スライド、配布資料を作成した。
77. 武庫川女子大学生生活環境学科1年後期「CG基礎実習」	2005年09月～12月	Photoshop、Illustratorにかかわるレジメ、課題資料を作成した。
78. 武庫川女子大学共通教育「建築・都市とシミュレーション」	2005年04月～2007年07月	群集行動、探索歩行、注視と歩行行動、中心視と周辺視、仮想現実空間、集団の探索行動と情報交換にかかわる講義スライド、配布資料を作成した。
79. 武庫川女子大学短期大学部生活造形学科2年後期「住宅CAD実習」	2004年09月～12月	VectorWorksを活用した建築製図、3DCADにかかわるレジメ、課題資料を作成した。
80. 武庫川女子大学短期大学部生活造形学科1年後期「住宅設計製図Ⅱ」	2004年09月～12月	展開図の課題にかかわる課題資料を作成した。
81. 武庫川女子大学大学院生活環境学専攻修士課程1年「建築計画学特論」	2004年04月～2005年07月	群集歩行、避難行動の特性およびそのシミュレーション、視覚と歩行行動にかかわる講義スライド、配布資料を作成した。
82. 武庫川女子大学生生活環境学科3年前期「住宅CAD実習」	2004年04月～07月	VectorWorksを活用した建築製図、3DCADにかかわるレジメ、課題資料を作成した。
83. 武庫川女子大学生生活環境学科2年前期「CG基礎実習」	2004年04月～07月	Photoshop、Illustratorにかかわるレジメ、課題資料を作成した。
84. 大阪成蹊大学芸術学部デザイン学科3年前期「デザイン専門研究Ⅳ」	2003年04月～07月	建築構造のしくみ、力の流れとかたちにかかわる講義スライド、配布資料を作成した。
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
<b>4 その他</b>		
1. 武庫川女子大学附属高等学校SSコース2年「科学演習実験Ⅱ」指導	2018年09月25日	「建築の空間とデザイン」と題して、「建築」の語源、「強・用・美」、建築家の役割、建築学科・大学院建築学専攻の学び等を説明したのち、構造と様々な建築形態の関係を講義した。その後学科・専攻の学舎（甲子園会館、建築スタジオ）を案内した。
2. 大学院建築学専攻修士課程1年担任	2016年04月～2016年09月	
3. 武庫川女子大学附属高等学校SSコース3年「科学演習実験Ⅲ」指導	2014年05月26日	「平面による構成」をテーマに、スチレンボードを使って塔をつくる課題の演習を行った。
4. 武庫川女子大学附属高等学校SSコース3年「科学演習実験Ⅲ」指導	2013年07月13日	トラス構造をもつ大空間（ブルボン ビーンズドーム）と、鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）と免震構造が採用されている建築（兵庫県立美術館）を見学し、その構造上の特色を高校生に解説した。
5. 武庫川女子大学附属高等学校SSコース3年「科学セミナー」指導	2011年05月～2011年10月	武庫川女子大学附属高校SSコース3年生で、建築分野における卒業研究を希望する5名に対し、3次元CADを用いた造形課題の指導を行った。
6. 生活環境学科3年Dクラス担任	2005年04月～2006年03月	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 一級建築士	2011年02月10日～	国土交通大臣の免許を受け、一級建築士の名称を用いて、建築物に対し、設計、工事監理その他の業務を行う国家資格である。
<b>2 特許等</b>		
1. 排水溝と縦樋が不要なバルコニー	2016年06月04日出願	特願2016-112311（発明者：鈴木利友、則包勝典、西岡啓二）
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>				
<b>4 その他</b>				
1. 兵庫県警察学校 雑踏警備対策専科第4期 講義「雑踏事故防止について」	2017年11月07日	兵庫県下の警察署の地域企画係長に対し、群集事故の系譜、群集を定量的にとらえる3つのパラメーター（群集密度、歩行速度、流動係数）およびこれらの相互の関係、および群集整理の方法などについて講義を行った。		
2. 兵庫県警察本部 地域企画係長対象講義「雑踏事故防止について」	2017年05月24日	兵庫県下の警察署の地域企画係長に対し、群集事故の系譜、群集を定量的にとらえる3つのパラメーター（群集密度、歩行速度、流動係数）およびこれらの相互の関係、および群集整理の方法などについて講義を行った。		
3. 兵庫県警察学校 雑踏警備対策専科第3期 講義「雑踏事故防止について」	2016年11月10日	兵庫県下の警察署の地域企画係長に対し、群集事故の系譜、群集を定量的にとらえる3つのパラメーター（群集密度、歩行速度、流動係数）およびこれらの相互の関係、および群集整理の方法などについて講義を行った。		
4. 兵庫県警察学校 雑踏警備対策専科第2期 講義「雑踏事故防止について」	2015年06月01日	兵庫県下の警察署の地域企画係長に対し、群集事故の系譜、群集を定量的にとらえる3つのパラメーター（群集密度、歩行速度、流動係数）およびこれらの相互の関係、および群集整理の方法などについて講義を行った。		
5. 兵庫県警察本部 雑踏警備担当係長講習「雑踏事故防止について」	2014年11月26日	兵庫県下の警察署の雑踏警備担当係長に対し、群集事故の系譜、群集を定量的にとらえる3つのパラメーター（群集密度、歩行速度、流動係数）およびこれらの相互の関係、および群集整理の方法などについて講義を行った。		
6. 兵庫県警察学校 雑踏警備対策専科第1期 講義「雑踏事故防止について」	2014年05月28日	兵庫県下の警察署の地域企画係長に対し、群集事故の系譜、群集を定量的にとらえる3つのパラメーター（群集密度、歩行速度、流動係数）およびこれらの相互の関係、および群集整理の方法などについて講義を行った。		
7. 兵庫県警察本部 雑踏警備アドバイザー	2014年04月01日～	行事等の開催場所を实地踏査し、会場の適否及び必要な安全対策について、警察、主催者等に対して専門的見地から指導及び助言を行う。また警察職員に対して、専門的見地から雑踏警備に関する講習等を行う。		
8. 西宮市公共事業評価委員会 委員	2011年10月01日～	公共事業の効率性及び実施過程の透明性を高めるため、平成16年に設置された委員会である。平成25年8月1日からは、西宮市附属機関条例（平成25年西宮市条例第3号）の規定に基づき設置される委員会となった。所定の評価対象となる公共事業について、その必要性及び効果等の評価について審議を行う。		
9. 兵庫県立西宮今津高等学校模擬授業「建築の研究について」	2011年07月12日	西宮今津高校2年生9名に対し、前半は建築学と諸学との関係、建築設計における真・善・美、強・用・美、日本と欧米の大学と社会、資格制度の違いについて説明した。後半は建築学の中でも特に計画系の研究を取り上げ、アイカメラ実験、シミュレーションなど具体的な研究の例を紹介した。		
10. 共通教育委員会 委員	2006年04月～			
11. 教務委員	2005年10月～			
12. 情報処理教育委員会オブザーバー	2005年04月～2006年03月			
13. 広報入試委員	2005年04月～2005年09月			
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 京町家の環境技術と生活態度そして文化の形成	共	2012年01月	武庫川女子大学出版部	「京町家の伝統的住環境は、実は省エネ技術の宝庫である。そしてその背後にある住まい手の生活態度やその文化は伝統的住環境技術を産出した源泉であった。」地球環境と言う現代社会の緊要なテーマを、京町家における伝統的住技術や住まい手の生活態度、それらによって形成された文化と言う視点から調査研究した成果をまとめた一冊。今こそ、次世代のエネルギーや環境問題を考える上で、京町家から多くのことを学ぶべきである。（岡崎甚幸，大谷孝彦，鈴木利友，天島秀秋編）
<b>2 学位論文</b>				
1. 探索行動における視覚探索および情報交換に関する研究	単	2003年03月	京都大学博士学位論文	本論文は、個人または集団が建築・都市空間と最も密接に関わりあう探索行動に着目し、その際に重要な情報獲得の手段となる視覚探索と言語化された情報交換について、従来にない実験手法を用いて調査、分析したものであり、全4章からなる。第1章では、日常生活空間における探索行動時の視覚探索を明らかにすることを目的とし、実在する地下鉄駅舎でアイカメラを装着した被験者による探索行動実験を行い、その結果を分析している。第2章は第1章を踏まえて、さらに階段歩行時の注視行動を詳しく調査することを目的とし、地下鉄駅

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2 学位論文</b>				
<p>舎出入口の階段をアイカメラを装着した被験者が上る実験と下る実験を行い、その結果を分析している。</p> <p>第3章では、スクリーンとキーボードを用いた仮想現実空間における探索行動時の視覚探索および歩行行動が、現実空間のそれとどのように異なるのかを明らかにすることを目的としている。そのため仮想現実空間内に地下鉄駅舎を構築し、その中でアイカメラを装着した単独の被験者が、目的地を探索する探索行動実験を行い、現実空間における実験結果と比較している。</p> <p>第4章では、未知の空間で集団が行う探索行動について、主にそこで見られる情報交換に着目して明らかにすることを目的としている。そのため多数の計算機を接続したマルチユーザ型仮想現実空間を用いて、仮想迷路内の目的地を4人または8人からなる集団が探索する実験を行い、その結果を分析している。</p> <p>結語では、以上全4章で得られた成果をまとめ、探索行動における視覚探索や情報交換が、現実空間を歩行する人間が本能的にもつ身体の安全を確保する機能や、同じ空間を共有する他者の存在に大きく影響されることを結論づけている。</p>				
<b>3 学術論文</b>				
1. VERDURE ー高層緑化建築ー	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(東北), pp. 46-47	住民が積極的に緑化を意識できるようなバルコニーやパブリックスペースをもち、かつ避難安全性等の面でも実現可能な、高層緑化建築としての複合集合住宅を設計した。(著者:楠原愛梨,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋,山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
2. いらかのなみ ー手づくりの曲線に基づく建築設計を目指してー	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(東北), pp. 138-139	明治期に建設された住宅の屋根で実際に使用されていた棧瓦37枚を、3Dレーザースキャナで計測することにより得られたメッシュデータから抽出された、各瓦につき上下各2本のキーラインから、より形状の把握が容易な平面図形「いらかのなみ」を生成する手法を設計、提案し、実際に「いらかのなみ」を描画した。(著者:鈴木利友,井上年和 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
3. 観瀑堂	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(東北), pp. 364-365	日本の自然景観である滝、信仰の対象である滝を眺めるための上下の観瀑堂と、これらを繋ぐアプローチ空間を提案した。(著者:中村芽生,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋,山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
4. 斜面と重なり自然と沿う	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(東北), pp. 54-55	斜面地に建築を建てることにより、斜面地と建築との重なり合いの中で生まれる景観、空間の魅力に着目し、目の前に広がる庭を通じて内と外がつながる建築を提案した。(著者:橋本夏実,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋,山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
5. 天へと向かう聖堂	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(東北), pp. 360-361	初期キリスト教からバロックに至るまで発達してきたキリスト教の聖堂建築について、その空間がもつ意味を深く理解したうえで、機能や美をも超越した意味をもつ建築を新たに創造することを目指した。(著者:吉村陶子,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋,山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
6. HENRY MOORE MUSEUM	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(東北), pp. 248-249	自然の形態や人間のフォルムを研究したヘンリー・ムーアの彫刻と、ヘンリー・ムーアが研究した自然の形態の中でも建築的な空間への応用可能性が高い貝殻を建築的に使用することにより、自然や人間のフォルムの美しさを感じられるような建築空間を提案した。(著者:八木みちる,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋,山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
7. Vortex Arena	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(東北), pp. 234-235	「するスポーツ」のみならず「観るスポーツ」「支えるスポーツ」でも使用できることを目的とし、他にはないシンボリックなデザインのスポーツ施設を提案した。(著者:藤井祐帆,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋,山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
8. 主成分分析を用いた手づくりの棧瓦のキーラインの平面あてはめと座標変換	共	2018年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東北), 情報システム技術, pp. 203-204	手づくりの棧瓦のメッシュデータから抽出された、棧瓦の形状を特徴づけるキーラインに平面あてはめと座標変換を施すことにより、形状の解析が容易な平面図形に変換する方法を、主成分分析を用いて検討した。その結果、キーラインは、主成分分析による平面あてはめ、座標変換を施した後、キーラインの中心が原点に来るよう左右に平行移動することによって、位置や向きがばらつきが小さい平面図形に

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
9. 建築における曲線の印象評価に関する研究	共	2018年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東北), 建築計画, pp.703-704	変換可能なことを明らかにした。(著者: 鈴木利友, 井上年和 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
10. パブロ・ピカソ美術館	共	2018年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(東北), pp.266-267	建築の立面図と3次元空間における曲線を対象に、人が曲線から受ける印象を決定づける 因子、および曲線の種類と好ましさを関係を、SD法を用いた実験と因子分析により探った。その結果、立面図と3次元空間における曲線の印象評価因子が明らかになるとともに、立面図では美的曲線、3次元空間では円弧の評価が高い一方で、B-スプラインの評価はいずれも低いことが分かった。(著者: 渡邊優貴, 杉浦徳利, 松下 聡, 鈴木利友, 田川浩之 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
11. 3Dレーザースキャナを用いた手づくりの棧瓦の計測	共	2018年03月	2018年度精密工学会春季大会学術講演会講演論文集, pp.583-584	キュビズムの絵画では、3次元の物体が、単純な形態の重なりによって描かれている。キュビズムの絵画を3次元の空間にするには、どのように重なっているか、何を表現した形態であるのか、隠れている部分がどのようにになっているのか、表面と表面をどのようにつなぎ奥行きを作り出すか、を想像、考察することが必要である。本設計では、4枚のピカソの絵画の構成要素を解体して、再構成した。(著者: 原沢朋花, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋, 山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
12. 木造住宅における縦樋のない防水バルコニー	単	2017年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国), 材料・施工, pp.873-874	日本各地に普及している棧瓦は、今なお日本の景観を特徴づける要素の一つである。現代の棧瓦は、金型プレスによる機械生産が行われている。金型の形状は、機械化以前の棧瓦の形状を参照して決められていると考えられるが、各社の企業秘密であり、根拠は明らかでない。本研究では、大阪府内の住宅で実際に使用されていた手づくりの棧瓦について、3Dスキャナを用いた計測を試み、キーラインの定式化を目指した。(著者: 鈴木利友, 井上年和, 鈴木晶, 三浦憲二郎 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
13. Serpente Tower	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(中国), pp.282-283	防水バルコニーに浸入した雨水等の水を、縦樋を設けずに排水可能なバルコニーとその施工方法を、一般の木造の戸建住宅に普及可能な方法で提案した。
14. Migration Architecture	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(中国), pp.384-385	バロック様式の動的表現にみられるねじれに着目し、建築に巻きつく蛇をデザインモチーフとし、ねじれを外観で表現した超高層建築を提案した。(著者: 池澤萌子, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋, 山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
15. Expressionism Architecture	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(中国), pp.432-433	建築や庭園でみられる回遊行動を3つのタイプに分類した上で、空間をめぐることによってこれら3つのタイプの回遊行動を行い、回遊性を感じられる展示空間の提案を行った。(著者: 大原こころ, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋, 山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
16. エル・カズネの前に建つ劇場	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(中国), pp.270-271	表現主義の建築のように、自己の内面の表現としての建築を設計することを目的とし、新たな展示空間の提案を行った。(著者: 奥野由布子, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋, 山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
17. パーミヤーン仏教寺院 復元設計計画	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(中国), pp.136-137	ヨルダンにある遺跡の一つであるエル・カズネの前に、遺跡を舞台背景とし、必要ときのみ組み立てられる仮設の劇場を設計した。(著者: 神本希美, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋, 山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
18. 祈りの道を辿る ー海を望む教会堂へのアプローチの提案ー	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(中国), pp.424-425	古代のパーミヤーンの寺院を推測した上で、複数の寺院と商業空間からなる復元設計を、一つの仮説として行った。これにより、危機に瀕しているパーミヤーン遺跡の文化的価値が再び見直されることを目的とした。(著者: 白原綾乃, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋, 山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
19. 公共建築の中にある「個」の空間	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(中国), pp.194-195	長崎の教会堂は、キリシタンたちが迫害から隠れられるように、海や斜面の近くで、舟で訪れるような場所に多い。それを踏まえた敷地を五島列島の島に想定し、棧橋から教会堂に至るアプローチ空間の設計を行った。(著者: 平田望留, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋, 山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
				人々が集う空間を「集」の空間、一人ひとりのための空間を「個」の空間としてとらえ、両者の関係を築くことができる公共施設を提案した。(著者: 永田瑞季, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋, 山口 彩 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
20. APPLICATION OF LOG-AESTHETIC CURVES TO THE ROOF DESIGN OF A WOODEN HOUSE. (査読付)	単	2017年03月	Archi-Cultural Interactions through the Silkroad, 4th International Conference, Mookogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016, Selected Papers, pp.121-126, 2017. 3	対数型美的曲線(LAC)の建築設計への応用の可能性を明らかにするため、LACを応用して木造住宅の切妻屋根を設計し、施工した。LACの端点における接線の方向や曲率などに条件を設けることにより、軒先の直線とLACが滑らかに接続し、軒先の曲率が滑らかに変化する屋根を設計した。LACは建設現場での作図が困難なため、割り付けや曲線を含む原寸図をロール紙に印刷した。原寸図はその後現場に搬入し、野地板を切断する際の型紙とした。切断した野地板をアスファルトルーフィングとガルバリウム鋼板で葺き、鼻隠しを施工することにより、LACの屋根をもつ木造住宅を建設できた。
21. APPLICATION OF LOG-AESTHETIC CURVES TO THE EAVES OF A WOODEN HOUSE. (査読付)	単	2016年11月	Archi-Cultural Interactions through the Silkroad, 4th International Conference, Mookogawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 16-18, 2016, Proceedings, pp.67-70, 2016. 11	木造住宅の切妻屋根の軒先曲線を例に、自然物にみられる曲線と共通した性質をもつ対数型美的曲線(LAC)を、建築設計に活用することを試みた。これにより、曲線を活用した木造住宅を普及させるための知見を得ることを目指した。
22. 対数型美的曲線を応用した木造住宅の屋根	共	2016年09月	2016年度精密工学会秋季大会学術講演会講演論文集, ポスターセッション, pp.1-2	対数型美的曲線の建築設計への応用の可能性を明らかにするため、対数型美的曲線を応用して木造住宅の切妻屋根を設計し、施工した。対数型美的曲線は建設現場での作図が困難なため、CADで作図した曲線を原寸大でロール紙に印刷し、現場に搬入した。印刷された曲線に従って野地板を切断し、屋根を葺き、鼻隠しを施工することにより、対数型美的曲線の屋根をもつ木造住宅を建設できた。(著者：鈴木利友, 鈴木晶, 三浦憲二郎 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
23. 対数型美的曲線を応用した屋根の設計	共	2016年09月	2016年度精密工学会秋季大会学術講演会講演論文集, pp. 503-504	対数型美的曲線の建築設計への応用の可能性を明らかにするため、木造住宅の切妻屋根の形状を、直線と対数型美的曲線の組み合わせによって設計した。対数型美的曲線の端点において、接線の方向や曲率などに条件を設けることにより、軒先の直線と曲線が滑らかに接続し、軒先の曲率が滑らかに変化する屋根が設計できた。(著者：鈴木利友, 鈴木晶, 三浦憲二郎 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
24. 発散型美的曲線を用いた軒先曲線の決定 -木造住宅の切妻屋根の設計を事例として-	単	2016年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(九州), 建築歴史・意匠, pp.33-34	木造住宅の切妻屋根を例に、直線と滑らかに接続可能な性質をもち、自然物や工芸品に多く見られる曲線と共通した特徴をもつことが知られる発散型美的曲線を用いて軒先曲線を決定し、決定した曲線で屋根を施工できることを明らかにした。
25. つむぐグスク	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(九州), pp. 172-173	かつて御嶽が聖所として「腰当て」の空間を象徴する祈りの場であったように、急激な観光業の発展による市街化現象によって信仰空間との関わりの薄れた市街地と神の森を繋ぐグスクを計画した。神が宿る自然を身近に感じ、市街地と神の森を緩やかに繋ぎ、人々に石垣島の“姿”を森から立ち上がったようなグスクによって、肌で体感する空間を提案した。(著者：吉野有里恵, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
26. 都市の森	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(九州), pp. 182-183	山の輪郭をモチーフとした屋根と、樹木をモチーフとした柱をもつ建築を例に、自然界の形態をモチーフとした建築設計の可能性を提案した。(著者：平嶋奈弥, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
27. 海触洞を臨む拝殿	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(九州), pp. 286-287	本殿を持たない神社の提案を行い、自然(本殿)と建築(拝殿)の融合を図った。自然を引き立てる建築を目指しながら、その建築によって日本人の自然を尊ぶ精神をも引き立てるよう提案した。(著者：野崎奈緒美, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
28. 木造のゴシック建築	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(九州), pp. 292-293	木造建築の素晴らしさを多くの人に伝えられるよう、大仏様建築(浄土寺浄土堂、東大寺南大門)の意匠を参考に、ゴシック建築の教会を提案した。(著者：磯上奈穂美, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
29. Surrealism Architecture	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(九州), pp. 422-423	人に見られる側の世界に属する建築をシュルレアリスム的な手法を用いて生み出すことにより、見る者の記憶や本能、連想に語りかけ、幾通りもの想像に応える空間を有する形態を Surrealism Architecture として提案した。(著者：奥田まり, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
30. 森具の家 ー木々に囲まれた緩傾斜地を覆う切妻屋根とその下に展開する不均質な空間ー	単	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(九州), pp. 42-43	木々に囲まれた段丘上の緩傾斜地に建てられた2階建の戸建住宅である。比較的複雑な形状をもつ平面を、直線と美的曲線を組み合わせた1枚の切妻屋根の下に収めた。木々の緑が映えるよう、外観はできる限り無彩色でまとめた。敷地形状と平面計画の制約により間崩れとなっているが、西側はルーバー、東側は雁行により、違和感を感じさせないようにした。壁と天井は、多機能けい酸カルシウム板(モイス)を使用し、無塗装とした。内装材や下駄箱、本棚には、間伐事業で伐採された杉、ヒノキを最大限使用し、間伐材の利用促進を図った。玄関には、歌川広重の東海道五十三次(保永堂版)をモチーフとしたステンドグラスを設けた。
31. 装飾とカーテンウォールによる建築	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(関東), pp. 254-255	F.L.ライトの用いた寸法体系を研究し、独自の寸法体系、装飾を提案した。それに基づき、現代建築の象徴といえるガラスのカーテンウォールと古代、近代建築の象徴といえる装飾を融合させることによって、現代における新たな装飾建築を提案した。(著者:谷なつき,岡崎甚幸,天島秀秋,鈴木利友 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
32. 自然光を導き入れる展示空間	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(関東), pp. 234-235	訪れるたびに異なる表情をみせ、変化し続ける展示空間として、自然光のみによって作品を照らす博物館を設計した。屋外の光の変化が屋内にそのまま反映されるのではなく、光が床や壁に一度当たることによって、その時しか出会うことができない空間を各展示室に作り出す。(著者:今川泰江,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
33. 海に浮かぶ集落	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(関東), pp. 130-131	浮体構造物の中でも居住性が高く、環境への負荷が小さく、津波などの災害にも強いとされるセミサブ型浮体構造物を用いた海上都市を考案した。荷重と浮力の釣り合い、制的安全性、Heave固有周期といった成立条件を検討のうえ、外側、内側ともにセットバックした海上都市を設計している(著者:羽間冬香,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
34. 水の廻る町	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(関東), pp. 72-73	伝統的な庭園様式にみられる水の表現方法のうち、西洋のカスケードや日本における滝といった、時間軸をもつ要素を都市の中に用いることにより、日常の中に非日常な空間を構成した。本設計は4棟の集合住宅によって囲まれており、一つの町を構成している。(著者:鈴木絢美,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
35. カテナリーの教会	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(関東), pp. 50-51	カテナリー曲線とは、ロープや電線などの両端を持って垂らした時にできる曲線である。カテナリー曲線を用いて曲面を構成することにより、聖母マリアの優しさや安心感を感じられ、心穏やかに安らげる空間を設計した。(著者:今治こみ加,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
36. トルコ地中海地方の山間に位置する2つの傾斜地集落の比較 ーアンタルヤ県ヤルバシュチャンドゥル村およびメルスィン県ウズンカシュ村における調査を通してー	単	2014年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), 建築計画, pp. 969-970	トルコ地中海地方において、山間の傾斜地に位置する2つの集落を選定し、資料調査および現地調査を行い、その結果を比較、考察した。その結果、立地や気候が類似している2つの集落は、複数のアプローチ道路が互いに集落内を通り抜け、そこから道が枝分かれしながら集落全体に広がる空間構成、中心部に村人の憩いの場としての喫茶店が設けられていることなどの特徴的な共通点をもつことがわかった。一方、赤瓦の屋根をもつ家屋が斜面の広範囲に広がっているヤルバシュチャンドゥル村と、陸屋根と勾配屋根が混在した家屋が道に沿って集まり、その外側に畑が広がるウズンカシュ村の相違点も明らかにした。
37. コミュニティ衰退における社会的変遷及び生活環境的要因 ー堺市東浅香山地域の実態調査ー	共	2014年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)都市計画, pp. 431-432	堺市東浅香山地域のコミュニティ衰退を社会変遷及び生活環境的要因を明らかにすることを目的とし、実態調査を行った。その結果コミュニティ衰退の社会的変遷及び生活環境的要因として(1)プライバシー意識を軽減し近隣と関わる場である路地の減少、(2)駐車場の所有や増改築による居間などの居住空間の閉鎖化、(3)子どもの増加に合わせた私室増加による家族の関わりや家族構成の変化への適応性の欠如(4)ライフラインや趣味や情報を共有する場の減少、(5)若い世代の減少や女性の社会進出に伴う地域内の関わりの減少、が挙げられることが明らかになった。それらの生活環境的要因は、昭和35年以降の人口増加や産業発展、電化製品の普及などの社会的変遷と関係している。(著者:田中佑奈,岡崎甚幸,鈴木利友,天島秀秋 共同研究につき本人担当)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
38. 広重の浮世絵の風景画に見られる俯瞰景の投影法による分類	共	2014年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), 都市計画, pp. 547-548	部分抽出不可能) 高台や中高層建築などからの俯瞰の都市景観の設計のため、本論では広重の『名所江戸百景』の中の俯瞰の絵画を投影法に着目して分析した。その結果、軸測投影、斜投影、立面の集合、透視投影に分類することができた。地平線のないものは、名所絵図の名残があり、軸測投影に2点、斜投影に1点あった。軸測投影的俯瞰景は34点あった。都市景観において斜めの構成を用いることで、豊かな空間をもつ景観をつくることのできる。斜投影的俯瞰景は26点あり、近像型の比率が高かった。透視投影の俯瞰景には、左右対称で一直線の街路に沿った西洋的な景観の影響が現れている。反対に立面の集合による俯瞰景は我が国の伝統を継承するものである。(著者：本田くるみ, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
39. 都市の洞窟	共	2014年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(近畿), pp. 278-279	自然と共存できる現代の建物の新たな形態として「都市の洞窟」を提案した。敷地は周囲を四角い建物とアスファルトの道路に囲まれた、多くの自動車が行き交う都市の一角である。ただ大きな山を作るだけでなく、様々な要素を用いることで、場面を区切り、ヒューマンスケールに合わせた計画を行う。斜面の土は、芝や木の根で土止めを行う。人が訪れる南側は勾配をなだらかに、北側は石垣や壁面を用いることで隣接するビル群と調和させた。また商店街の通りの顔となる入り口部分にトンネルを用いた。西側には大きな塔を建てることで、大通りを自動車で行き交う人々の目にも留まるよう計画した。(著者：村上友理子, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
40. 海上の楽園 -浮体式セミサブ型構造を用いたリゾートホテル-	共	2014年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(近畿), pp. 280-281	埋立てが不要な海洋建築として、リゾートホテルの設計を行った。設計にあたっては、海洋生態系に対する負荷の低減と、地震や津波、高潮などの災害に対する安全性の確保を重視して、構造形式に浮体式セミサブ型を採用した。本構造はリゾートホテルに限らず、他にもさまざまな用途の建築物、ひいては空港などの土木構造物にも応用できると考えられる。(著者：吉村裕子, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
41. 新国会議事堂	共	2013年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(北海道) pp. 192-193	日本の伝統建築に見られる日本的空間の要素13個を抽出し、それらの13個の日本的空間の要素を取り込み、日本的空間をもつ国会議事堂を設計した。外観は象徴的な伽藍配置、組物による彫塑的な構成、日本的な軒下の影の落ちる空間を、内観は小屋組を取り入れるようにした。(著者：北岡敦子, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
42. トルコ東アナトリア地方の山間の傾斜地に位置する2つの牧畜集落の比較 -エルズルム県コナクル村およびアール県ベスレル村における調査を通して-	単	2013年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道) 建築計画, pp. 1345-1346	トルコ東アナトリア地方において、山間の傾斜地に位置する2つの集落を選定し、資料調査および現地調査を行い、その結果を比較、考察した。その結果、立地や気候が類似している2つの牧畜集落は、複数のアプローチ道路をもち、互いに集落内を通り抜けるようにつながる空間構成、塀やフェンスで囲われた各家の庭や畑、平屋で石積造、レンガ造、コンクリート造の建物など、特徴的な共通点ももちつつ、それぞれ異なる特徴的な景観が形成されていることを明らかにした。
43. Spatial Composition of Intermountain Settlements on Slopes with High Wintertime Precipitation in Eastern and Southeastern Anatolia of Turkey: Case Studies of Cevre Village in Bitlis and Aran Village in Mardin (査読付)	単	2013年03月	Intercultural Understanding, Vol. 3, pp. 33-40	トルコ東アナトリアおよび南東アナトリア地方において、冬季の降水量が比較的多い地域の山間の傾斜地に位置する集落の空間構成を明らかにするため、ビトリス県チェブレ村と、マルディン県アラン村を事例とした現地調査と資料調査を行い、考察した。その結果、両集落では学校の位置、2階建の家屋が多いこと、建物の1階床面の一部が斜面の下にある建物が多いことといった共通点以外に、数多くの空間特性の相違点が指摘できた。これらは、農耕集落と牧畜集落の違い、地域の建築文化の違い、およびチェブレ村における過去の強制移住といった地域の歴史に起因するものと考えられる。
44. Spatial Composition of Intermountain Pastoral Settlements on Slopes in Eastern Anatolia of Turkey: Case Studies of Konakli Village in Erzurum and Besler Village in Agri(査読付)	単	2013年03月	Intercultural Understanding, Vol. 3, pp. 23-31	トルコ東アナトリア地方において、山間の傾斜地に位置する牧畜集落の空間構成を明らかにするため、エルズルム県コナクル村と、アール県ベスレル村を事例とした現地調査と資料調査を行い、考察した。その結果、人と家畜が隣接しながら居住し、周囲の牧草地で放牧が行われている牧畜集落では、これまで調査した林業や農耕を主とした集落とは、空間構成が大きく異なることが分かった。また2つの村では、建物の向き、家屋と畜舎へのアプローチ、塀で囲まれた中庭の有無、勾配屋根に改造された家の数

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
45. 子どもの発達と遊び空間	共	2012年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(東海) pp. 220-221	などが異なり、これらが集落の景観に大きく影響していることも分かった。 子どもたちの遊びの中で、主に屋外での運動遊びにみられる8つの行為と、身体各部の成長による遊び空間の変化を明らかにした。そしてこれに基づき、遊び空間を設計した。設計においては、それぞれの年齢に応じた遊び空間を、年齢順に連結させた。これにより、仲間と共に遊ぶための遊び空間を与えるとともに、子どもが年齢や身体各部の成長に応じた空間で遊ぶことによって、成長を促すことができる空間を設計した。(著者：西田祥子，岡崎甚幸，鈴木利友，天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
46. CEZANNE の表現手法を用いた空間設計	共	2012年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(東海) pp. 214-215	人の知覚の側面から建築を設計するにあたり、セザンヌの手法を分析し、建築空間への応用を試みることを目的とした。研究の対象とした絵画は、セザンヌの独自性が特に現れている1880年代以降の作品とした。そして、これらの作品に対するアール・ローランの見解である『セザンヌの構図』のうち、2つの分析に着目し、これらを建築化することにより「『構成要素の重なりによる3次元化』による奥行き知覚に基づく空間設計」および「『形のデフォルメーション』による知覚の恒常性に基づく空間設計」を行った。(著者：伊勢文音，鈴木利友，天島秀秋，岡崎甚幸 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
47. トルコ黒海地方の山間に位置する傾斜地集落の景観と地域社会の形成に関する空間的考察 -カラビュック県ボルクス村およびアマスヤ県チテムリク村における調査を通して-	共	2012年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海) 建築計画, pp. 1145-1146	トルコにおいて比較的森林に恵まれている北部の黒海地方において、山間の傾斜地に位置する2つの集落を選定し、資料調査および現地調査を行った。そして各集落の地形、生活と、集落を構成する建築、道との関係を、景観や地域社会の形成等の視点から考察し、その空間特性を明らかにした。その結果、モスクや広場を中心とした地域社会と空間構成、下階に組積造を用いた木造家屋、屋根の形態や向き、スケール、色を類似させることによる良好な景観の形成を明らかにした。(著者：鈴木利友，岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
48. SPATIAL COMPOSITION OF THREE INTERMOUNTAIN SETTLEMENTS LOCATED ON SLOPES IN NORTHERN AND CENTRAL TURKEY. (Proceedings, 査読付)	共	2012年09月	Archi-Cultural Translations through the Silkroad, 2nd International Conference, Muko gawa Women's University, Nishinomiya, Japan, July 14-16, 2012, Proceedings, pp. 127-132	トルコ北中部の山間の傾斜地に位置する3つの集落に着目し、資料調査および現地調査を行い、これらの空間構成について考察を行った。その結果、これらの集落においては、(1)モスクや広場を中心とした空間構成がコミュニティの形成を助けていること、(2)木造家屋の下階に組積造を用いることによって傾斜地を有効に活用していること、(3)屋根の形態や向き、スケール、色を類似させることによって、景観に統一感がもたらされていることを明らかにした。(著者：鈴木利友，岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
49. EYE MOVEMENT ANALYSIS IN MODERN ARCHITECTURE WITH JAPANESE TRADITIONAL SPATIAL STRUCTURE : CASE STUDY OF STAIRCASES IN KO SHIEN HOTEL. (Book, 査読付)	共	2011年10月	Archi-Cultural Translations through the Silkroad, Bahcesehir University Press, pp. 75-86	日本の伝統的な空間構成の1つといわれる、歩くにつれて奥の風景が現れてくる空間がもつ特性を、人間の視覚の側面から解明することを目指した。本研究ではケーススタディとして、近代建築の傑作の一つである遠藤新設計の旧甲子園ホテルの1階から上階に至る階段を選び、そこを歩く人の眼球運動の分析を行った。その結果、歩行状態や前方の風景の変化に伴う注視点の移動方向や注視場所の変化は、階段下り歩行実験よりも階段上り歩行実験において顕著にみられることが分かった。このことから本階段は、上る際に豊かな空間体験をもたらすことを意図した空間であると考えられた。(著者：鈴木利友，岡崎甚幸，植村麻衣 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
50. 泉南一丘団地における地域コミュニティの再構築による団地再生の提案	共	2011年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(関東) pp. 316-317	大阪府泉南市の泉南一丘団地を例に、高齢化社会に対応し、住民同士が地域社会を築いていける団地の再生手法、および環境的視点に立った、ストックを活用した再生計画の検討を行った。その結果、囲まれた住空間の形成、「集いの場」となるメインストリートの設置、高齢者向け住居の設置、共同施設の設置、区間内部に託児所や商店の設置、オープンスペースの活用を提案できた。これらにより、住民の間に交流の場を作り、地域コミュニティを活性化させ、住民同士が支え合うことの出来る団地を構成できると考える。(著者：小川真理子，岡崎甚幸，鈴木利友，天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
51. 感性による装飾	共	2011年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集(関東) pp. 184-185	人間のスケールに合う小さな部材を積層することにより、『装飾により感性を刺激する結婚式場』を設計した。柱に付属するタイルにも300mmの基準寸法を用いることにより、柱の大きさに合うタイル装飾と

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
52. クルアーンにみられる雨の記述と 楽園の関係性について	共	2011年08月	日本建築学会大会学術 講演梗概集(関東) F-2, pp. 411-412	した。取り外し可能なPCコンクリートを用いることにより、再利用可能で環境にも配慮した構造体となっている。システムを用いてブロックを積層させることにより、ブロックの集合体が建物の表情となって豊かな空間となる。これこそが現代人の感性による装飾である。そして、これらは建物の内部に入って初めて感じることで建物の真の姿となる。 (著者：松枝知花，岡崎甚幸，鈴木利友，天島秀秋 設計指導担当につき本人担当部分抽出不可能)
53. 旧甲子園ホテルの階段がもつ空間 特性の考察 -甲子園会館および 建築スタジオにおける階段歩行時 の注視に関する研究 その7-	共	2011年08月	日本建築学会大会学術 講演梗概集(関東) F-2, pp. 205-206	イスラーム教徒の自然観の根幹がクルアーン(コーラン)に基づいていると仮定し、文中に多用されている雨に関する記述をクルアーンから抜き出した。そして雨がもたらす効果とイスラーム教庭園との関係を考察した。その結果、クルアーンの文中にも多用されている雨は、乾燥地帯に広がったイスラーム教徒の生活や庭園と密接な関係にあること、イスラーム教徒にとって神がもたらす恵みと捉えられるものであり、神への信仰心へと繋がっていることが明らかになった。(著者：櫻井美里，天島秀秋，鈴木利友，岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
54. EYE MOVEMENT ANALYSIS IN MODER N ARCHITECTURE WITH JAPANESE T RADITIONAL SPATIAL STRUCTURE : CASE STUDY OF STAIRCASES IN KO SHIEN HOTEL. (Proceedings, 査読 付)	共	2011年03月	Archi-Cultural Transl ations through the Si lkroad Proceedings, I nternational Conferen ce 16-18 March 2011, Bahcesehir University , Istanbul, Turkey, p p. 84-91	日本の伝統的な空間構成の1つといわれる、歩くにつれて奥の風景が現れてくる空間がもつ特性を、人間の視覚の側面から解明することを目指した。本研究ではケーススタディとして、近代建築の傑作の一つである遠藤新設計の旧甲子園ホテルの1階から上階に至る階段を選び、そこを歩く人の眼球運動の分析を行った。その結果、歩行状態や前方の風景の変化に伴う注視点の移動方向や注視場所の変化は、階段下り歩行実験よりも階段上り歩行実験において顕著にみられることが分かった。このことから本階段は、上る際に豊かな空間体験をもたらすことを意図した空間であると考えられた。(著者：鈴木利友，岡崎甚幸，植村麻衣 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
55. Eye Movements while Ascending and Descending Staircases in K oshien Hotel (査読付)	共	2011年03月	Intercultural Underst anding Vol.1, pp.59-7 1	アイカメラを装着した被験者が、遠藤新設計の旧甲子園ホテルにある2つの階段、および現代建築である建築スタジオの階段を上る実験と下る実験を行った。歩行状態、前方に見える遮蔽縁、注視点の移動方向分布、および注視場所別の合計注視時間に着目して分析、考察することにより、階段による注視点の移動方向と注視場所の類似点と相違を明らかにした。旧甲子園ホテルの階段は、そこを上る際に豊かな空間体験をもたらすことを意図して設計されたと思われる。しかしながら同時に、そこを下る際の注視行動の変化も意図して設計された可能性がある。(著者：鈴木利友，岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
56. 階段上り歩行実験における注視場 所の変化 -甲子園会館および建 築スタジオにおける階段歩行時 の注視に関する研究 その6-	共	2010年09月	日本建築学会大会学術 講演梗概集(北陸) E-1, pp. 743-744	既報で報告した、甲子園会館および建築スタジオにおける階段上り歩行実験の結果を、歩行状態や前方に見える風景と、注視場所の関係を着目して定量的に分析、考察した。その結果階段上り歩行実験では、次の階の床面や壁面、あるいは踊り場が見えるかどうか、平面歩行時か階段上り歩行時か、直進運動か曲り運動かなどが、被験者の注視場所に影響を与えることが定量的に明らかになった。(著者：平野麻衣子，鈴木利友，植村麻衣，岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
57. 階段下り歩行実験における注視場 所の変化 -甲子園会館および建 築スタジオにおける階段歩行時 の注視に関する研究 その5-	共	2010年09月	日本建築学会大会学術 講演梗概集(北陸) E-1, pp. 741-742	既報で報告した、甲子園会館および建築スタジオにおける階段下り歩行実験の結果を、歩行状態や前方に見える風景と、注視場所の関係を着目して定量的に分析、考察した。その結果階段下り歩行実験では、次の階の床面や壁面が見えるかどうか、直進運動

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
58. II. わが国の伝統的住環境技術と文化の形成小委員会報告 第1章 伝統的住環境技術	共	2010年03月	日本建築学会 環境技術と建築・街並み・地域のあり方特別調査委員会 報告書 pp.45-56	か曲り運動などが、被験者の注視場所やばらつきに影響を与えることが定量的に明らかになった。(著者：鈴木利友, 植村麻衣, 平野麻衣子, 岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
59. II. わが国の伝統的住環境技術と文化の形成小委員会報告 第4章 伝統的住環境技術と文化の形成からみた提言に向けて	共	2010年03月	日本建築学会 環境技術と建築・街並み・地域のあり方特別調査委員会 報告書 pp.77-80	京町家の伝統的住環境技術を、第一に周辺環境に負荷を与えない環境共生技術として、第二にそれを支えた生活態度として、第三に文化の形成に関するテーマとして調査研究を行った。その結果得られた知見を提言としてまとめ、ガイドラインとした。(著者：岡崎甚幸, 大谷孝彦, 松原斎樹, 吉田博宣, 岩前 篤, 天島秀秋, 鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
60. II. わが国の伝統的住環境技術と文化の形成小委員会報告 第2章 生活態度	共	2010年03月	日本建築学会 環境技術と建築・街並み・地域のあり方特別調査委員会 報告書 pp.57-63	何事にも儉約を旨とし、派手でないこと、町内の人々との共存などを大切に生活の内容について明らかにし、この生活を支えた価値観について考察した。すなわち小委員会における討論の記録から、京町家の日常生活において物を大切にしている価値観や態度に基づき使われてきた京都特有の言葉を、(1)物にかかわる言葉、(2)自分自身に向けられている言葉、(3)他者との関係の言葉に分類して考察した。(著者：岡崎甚幸, 大谷孝彦, 天島秀秋, 鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
61. 階段歩行時における注視点の移動方向分布 —甲子園会館および建築スタジオにおける階段歩行時の注視に関する研究 その4—	共	2009年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東北) E-1, pp.621-622	既報で報告した、甲子園会館および建築スタジオにおける階段歩行時の注視行動を、歩行状態(平面歩行、階段歩行)および前方に見える遮蔽縁と、注視点の移動方向との関係に着目して定量的に分析、考察した。その結果、階段上り歩行実験および下り歩行実験における、シーンごとの注視点の移動方向の変化が定量的に明らかになった。(著者：鈴木利友, 植村麻衣, 平野麻衣子, 岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
62. 祇園祭における鉦の建築的特性について	共	2009年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東北) F-2, pp.333-334	祭を演出する装置であり、かつ祇園祭の期間中にだけ建てられる仮設建築としての建築的特性をもつ鉦について、船鉦と月鉦の鉦建ての現地調査を通して、その構造や組立て方法を把握した。また、それらの建築的特性に対応した接合方法や仕組みを明らかにした。(著者：平野麻衣子, 大谷孝彦, 天島秀秋, 鈴木利友, 岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
63. II. 伝統的住環境技術と文化の形成(わが国の伝統的住環境技術と文化の形成小委員会) 第1章 伝統的住環境技術	共	2009年08月	2009年度日本建築学会大会(東北) 環境技術と建築・街並み・地域のあり方研究懇談会資料「環境技術と建築・街並み・地域のあり方」p.65-76	10回に渡る小委員会で、大工、左官職人、町家の住み手、および町家や庭園に関わる研究者の意見を聞くとともに、京町家の改修や歴史や暮らしに関わる多数の文献資料を収集した。これらの情報を、湿度、温度などの環境要素と、壁、床などの空間構成要素からなるクロス表に整理し、そこから得られた知見をまとめた。また夏と冬に町家の室温を測ることにより町家の熱環境の実態を把握するとともに、住み手の話を聞いた。(著者：岡崎甚幸, 松原斎樹, 岩前 篤, 鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
64. II. 伝統的住環境技術と文化の形成(わが国の伝統的住環境技術と文化の形成小委員会) 第2章 生活態度	共	2009年08月	2009年度日本建築学会大会(東北) 環境技術と建築・街並み・地域のあり方研究懇談会資料「環境技術と建築・街並み・地域のあり方」p.77-81	日常生活の中にある、物を大切にしている価値観や態度が、京町家の住み手や職人達が古くから口にする言葉の中に込められているように思われる。本章ではそれらの言葉を拾い出し、物にかかわるもの、自分自身に向けられているもの、周りの人に向けられているものに分けて考察した。(著者：岡崎甚幸, 大谷孝彦, 天島秀秋, 鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
65. II. 伝統的住環境技術と文化の形成(わが国の伝統的住環境技術と文化の形成小委員会) 第4章 伝統的住環境技術と文化の形成からみた提言に向けて	共	2009年08月	2009年度日本建築学会大会(東北) 環境技術と建築・街並み・地域のあり方研究懇談会資料「環境技術と建築・街並み・地域のあり方」p.7-9, 95-97	京町家の伝統的住環境技術を、第一に周辺環境に負荷を与えない環境共生技術として、第二にそれを支えた生活態度として、そして第三に文化の形成としてとらえ、提言をまとめた。伝統的住環境技術、生活態度、文化の形成は互いに深い関連のもとに成立しており、これらの提言から総合的な視点を持つことが必要であることを述べた。(著者：岡崎甚幸,

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
66. 階段を歩く際に生じる注視点の移動方向の変化	共	2009年06月	電子情報通信学会技術研究報告 信学技報 Vol.109, No.83, HIP2009-53, pp.27-32	大谷孝彦, 松原斎樹, 吉田博宣, 岩前 篤, 天島秀秋, 鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
67. 3種類の階段におけるアイカメラを用いた歩行実験 -甲子園会館および建築スタジオにおける階段歩行時の注視に関する研究 その1-	共	2008年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国) E-1, pp.573-574	3種類の屋内階段におけるアイカメラを用いた階段歩行実験について、実験結果を定量的に表現する方法として、被験者の視野における注視点の移動方向分布に着目し、足元の状態および前方の風景の変化による変化を調査、分析、考察した。移動方向分布は、階段を上っているか下っているか、足元が階段であるか踊り場であるか、踊り場や階段の手前で身体が回転する角度、および階段の見通しのよさによって変化することが明らかになった。(著者: 鈴木利友, 植村麻衣, 平野麻衣子, 岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
68. 階段上り歩行時の注視行動の比較 -甲子園会館および建築スタジオにおける階段歩行時の注視に関する研究 その2-	共	2008年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国) E-1, pp.575-576	甲子園会館および建築スタジオにおける階段上り歩行実験にて見られた注視行動の特徴を分析、考察した。また、3種類の異なる階段において見られた実験結果の共通点、相違点を明らかにし、地下鉄駅舎における実験結果とも比較した。(著者: 平野麻衣子, 植村麻衣, 鈴木利友, 岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
69. 階段下り歩行時の注視行動の比較 -甲子園会館および建築スタジオにおける階段歩行時の注視に関する研究 その3-	共	2008年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国) E-1, pp.577-578	甲子園会館および建築スタジオにおける階段下り歩行実験にて見られた注視行動の特徴を分析、考察した。また、3種類の異なる階段において見られた実験結果の共通点、相違点を明らかにし、地下鉄駅舎における実験結果とも比較した。(著者: 植村麻衣, 鈴木利友, 平野麻衣子, 岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
70. 3種類の階段を歩く際の注視行動の比較	共	2008年08月	電子情報通信学会技術研究報告 信学技報 Vol.108, No.182, HIP2008-35, pp.25-30	大学学舎において、異なる空間特性をもつ3種類の階段を選び、この学舎を日常的に利用している者を被験者として、アイカメラを用いた階段歩行実験を行った。そして各階段における注視行動の特性、および共通点と相違点を明らかにした。その結果、階段の空間特性や経路学習の程度にかかわらず共通して見られる注視行動と、階段や壁面などの装飾、空間の形状、あるいは経路学習の程度によって変化する注視行動が明らかになった。(著者: 鈴木利友, 植村麻衣, 平野麻衣子, 岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
71. 甲子園会館(旧甲子園ホテル)における歩行時の注視行動の特性	共	2007年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(九州) E-1, pp.937-938	武庫川女子大学建築学科・大学院建築学専攻の学舎として使用されている甲子園会館の中で、特に風景の変化が豊かな階段付近に着目し、アイカメラを装着した被験者による歩行実験を行った。得られた注視行動の分析の結果、甲子園会館の豊かな装飾が、短時間注視を増加させ、また左右の方向への注視の移動を多く生じさせていることが明らかになった。(著者: 鈴木利友, 岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
72. 駅前市街地における注視対象と注視行動 -街路における探索歩行時の注視に関する研究 その2-	共	2004年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道) E-1, pp.813-814	仮設サインが設置された駅前の密集市街地において、アイカメラを装着した被験者が行った探索歩行実験において明らかになった、街路における注視対象による注視時間の違い、および仮設サインに近づく際の注視行動の変化について報告した。(著者: 池應れいか, 岡崎甚幸, 鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
73. 駅前市街地における仮設サインとアイカメラをもちいた探索歩行実験 -街路における探索歩行時の注視に関する研究 その1-	共	2004年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道) E-1, pp.811-812	街路が複雑で分かりにくい密集市街地に仮設サインを設置し、アイカメラを装着した被験者が駅から区役所を探索する実験を行った。その結果得られた注視時間分布を、既往の屋内迷路や地下鉄駅舎における実験と比較した結果、両実験の中間的な注視時間分布をとっていることが明らかになった。(著者: 鈴木利友, 岡崎甚幸, 池應れいか 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
74. 建築空間における歩行と視覚探索(査読付)	共	2004年01月	心理学評論 Vol.46, No.3, pp.330-349	安全かつ快適な建築空間の設計を目指す立場から、群集の歩行行動を可視的に予測し、経路探索など複雑な群集歩行が再現可能なシミュレーションモデルを開発した。そして歩行行動と物理的環境の関連を解明するための原点である視覚探索を調べるため、歩行者にアイカメラや制限視野マスクを装着して実験を行った。アイカメラをもちいた歩行実験によ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
75. 集団の探索行動における会話の分類 ー情報交換を伴う探索行動に関する研究 その5ー	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海) E-1, pp. 879-880	て、経路探索のシミュレーションにも有効な遮蔽縁に注視が集中すること、経路の学習が進むにつれて起こる注視行動の諸変化、現実空間の歩行に特有な注視時間100msec未満の短時間注視、階段歩行時や飛石歩行時における注視行動の特徴などを明らかにした。さらに制限視野マスクをもちいた歩行実験によって、歩行時の視覚探索では中心視と周辺視の協応が重要な役割を果たし、いずれか片方が欠けた場合は空間把握や行動に不具合が生じることを明らかにした。(著者：岡崎甚幸, 鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
76. 集団の探索行動における会話の類型化 ー情報交換を伴う探索行動に関する研究 その6ー	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海) E-1, pp. 881-882	集団の探索行動実験において多くの被験者が交わす会話は、質問と回答、主語、場の記号、格、述語によって構成される限られた組み合わせに類型化できることを示した。またその使われ方は話し手の行動や状態と密接に関係しつつ変化することを明らかにした。(著者：鈴木利友, 岡崎甚幸, 天島秀秋 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
77. 仮想迷路における集団の探索行動実験で見られた会話の分析	共	2003年05月	電子情報通信学会技術研究報告(信学技報 Vol. 103, No. 39, HIP2003-7, pp. 33-38)	9台の計算機を接続したマルチユーザ型仮想現実空間を用いて、8人の被験者からなる集団が仮想迷路内の目的地を協力し合いながら探索する実験を行った。そこで見られた膨大な会話を、主語、場の記号、格および述語によって構成されるものととらえて分析を行った。その結果、本実験のように話し手と聞き手が同じ空間を共有する状況では、互いの身体の位置関係に依存する場の記号が会話に多く現れること、多くの者が共通して用いる会話は限られた数にパターン化できることなどを明らかにした。(著者：鈴木利友, 岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
78. 茶室露地における飛石歩行の際の注視行動(査読付)	共	2002年10月	日本建築学会計画系論文集 No. 560, pp. 151-158	茶室露地において飛石に従って歩行する際の注視行動の特性を解明するために、アイカメラを装着した被験者が、飛石の歩き方を何も教示しない状況で露地を歩行する実験と、飛石の歩き方を教示した後で露地を歩行する実験を行った。その結果、飛石に従って歩行することによって、植栽への注視が減少し添景物などへの注視が増加すること、役石ごとに分節化された注視行動によって露地が捉えるようになることなど、歩行者の注視行動が確実に変化することが示された。このような注視行動によって歩行者が捉えている空間こそ、露地本来の姿なのではないかと考える。(著者：中村祐記, 岡崎甚幸, 鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
79. 能動的移動と受動的移動における注視行動の比較 ー迷路内での能動的探索歩行と車椅子による受動的移動における注視行動の比較に関する研究(その2)ー	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸) E-1, pp. 685-686	能動的探索歩行では試行を重ねると経路を学習し注視が流動的になるが、受動的移動では経路をよく学習し注視が流動的になる被験者と、経路をあまり学習せず注視が散発的になる被験者が見られた。また能動的探索歩行では頭部や身体よりも先に注視が進行方向へ向くが、受動的移動では、身体や頭部が回転した直後に注視が同じ方向に移動する現象や、身体が回転している間に注視が逆方向に移動する現象が見られた。(著者：須貝成芳, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 猪股圭佑 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
80. 8人での探索行動実験の概要および誘導に用いられた言葉 ー情報交換を伴う探索行動に関する研究 その3ー	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸) E-1, pp. 691-692	これまで4人の被験者からなる集団による探索行動実験を行ってきたが、より大人数の集団が経路を探索し、他者を誘導していく際の集団行動を明らかにすることを旨とし、8人の被験者からなる集団で実験を行った。吸着誘導は早くゴールを発見した被験者ほど多く用いる傾向があるが、指示誘導はそのような傾向が明確に現れず、むしろ被験者間の個人差が大きいことが分かった。(著者：鈴木利友, 岡崎甚幸, 天島秀秋 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
81. 能動的移動実験と受動的移動実験の方法について ー迷路内での能動的探索歩行と車椅子による受動的移動における注視行動の比較に関する研究(その1)ー	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸) E-1, pp. 683-684	能動的移動および受動的移動時の注視行動の違いを明らかにするため、アイカメラを装着した被験者が迷路内を探索歩行する実験と、実験者が押す車椅子に乗って迷路内を移動する実験を行った。経路選択を誤った回数および実験後に描画した地図の比較から、能動的に探索歩行を行った被験者の方が、受動

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
82. 飛石に従って歩行した時の注視行動の特性 —茶室露地における飛石歩行の際の注視行動 その2—	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸) E-1, pp. 679-680	的に移動した被験者よりも経路をよりよく学習していることを確認した。(著者:猪股圭佑,須貝成芳,岡崎甚幸,鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
83. 茶室露地における飛石歩行実験の方法 —茶室露地における飛石歩行の際の注視行動 その1—	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸) E-1, pp. 677-678	飛石の歩き方を教示することにより、短時間注視が減少し長時間注視が増加すること、身体側方への注視が減少し身体正面への注視が増加すること、3個先の飛石へと注視が集中すること、植栽への注視が減少し添景物への注視が増加すること、役石ごとに分節化された注視行動によって露地が捉えるようになることが明らかになり、歩行者の注視行動が確実に変化することが示された。(著者:中村祐記,原祥子,岡崎甚幸,鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
84. 地下鉄駅舎出入口における階段歩行時の注視行動(査読付)	共	2002年08月	日本建築学会計画系論文集 No. 558, pp. 151-158	歩行者の注視行動の観点から、茶室露地における飛石の規制の影響を解明することを目指した。そのため飛石の正しい歩き方を知らない被験者がアイカメラを装着し、飛石の歩き方を何も教示しない状況で露地を3回歩行し、飛石の歩き方を教示した後で同じ露地を再び3回歩行する実験を行った。その結果、飛石の歩き方を教示することによって、歩行軌跡だけでなく注視行動をも変化することがわかった。(著者:原祥子,中村祐記,岡崎甚幸,鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
85. 探索行動実験後における地図および風景描画の特徴 —情報交換を伴う探索行動に関する研究 その4—	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸) E-1, pp. 693-694	階段歩行時の注視行動を明らかにするため、アイカメラを装着した被験者が地下鉄駅舎出入口の階段を上る実験と下る実験を行った。その結果見られた注視行動の特徴は階段上り歩行実験と階段下り歩行実験で異なるが、両実験とも注視は階段付近や床遮蔽縁、壁遮蔽縁付近に集まり、これらが見えるかどうか注視行動に大きく影響することが分かった。また階段上り歩行実験の場合、歩行者が階段のどの場所にいるのか、あるいは階段への近づき方によっても注視が変化した。前方に壁遮蔽縁が見え、その手前に階段が見える場合の注視行動から、階段付近に見通しの悪い曲がり角を設けることがもたらす危険性に関する示唆も得られた。(著者:鈴木利友,岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
86. 迷路空間における移動方法と注視行動の関係に関する研究 —能動的探索歩行と車椅子による受動的移動の比較を通して—	共	2002年05月	電子情報通信学会技術研究報告 信学技報 Vol. 102, No. 44, HIP2002-3, pp. 13~18	競争協調型の探索行動実験終了後に被験者が描いた地図や風景について考察した。その結果、男性は空間の形状や方向を手がかりにして経路を覚える人が多いのに対し、女性は壁に貼られたサインを手がかりにする人が多く、明らかな性差が認められること、本実験のような迷路空間の場合は、印象に残る風景として、壁に貼られたサインを挙げる人が多いことを明らかにした。(著者:天昌秀秋,鈴木利友,岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
87. 地下鉄駅舎とその仮想現実空間における探索歩行時の注視と歩行行動の比較(査読付)	共	2002年05月	日本建築学会計画系論文集 No. 555, pp. 199-205	能動的移動および受動的移動時の注視行動の違いを明らかにするため、アイカメラを装着した被験者が迷路内を探索歩行する実験と、実験者が押す車椅子に乗って同じ迷路を移動する実験を行った。その結果、能動的探索歩行では試行を重ねると経路を学習し注視が流動的になるが、受動的移動では経路をよく学習し注視が流動的になる被験者と、経路をあまり学習せず注視が散発的になる被験者が見られた。また能動的探索歩行では頭部や身体よりも先に注視が進行方向へ向くが、受動的移動ではその関係が当てはまらないことも多く、身体や頭部が回転した直後に注視が同じ方向に移動する現象や、身体が回転している間に注視が逆方向に移動する現象などが見られた。(著者:鈴木利友,須貝成芳,岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
88. 階段下り歩行実験で見られる注視行動の特徴 —階段歩行時の注視行動に関する研究 その3—	共	2001年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) E-1, pp. 747-748	キーボードと平面スクリーンを用いた仮想現実空間の中で、人間行動を調べる際に留意すべき点を明らかにするため、仮想および現実の地下鉄駅舎で、アイカメラを装着した被験者が電車を降り、指定された出口を探す実験を行った。その結果、本実験で用いた仮想現実空間には、以下の特徴があることが明らかになった。1)現実空間での歩行で見られる、100msec未満の短時間注視がほとんどない、2)障害物と自分の身体との距離の把握が困難になる、3)現実空間の歩行では見られない受動的注視や追従的注視が生じる、4)現実空間では容易なはずの行動をとることがしばしば難しくなる。(著者:鈴木利友,岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
89. 地下鉄駅舎出入口におけるアイカメラを用いた階段歩行実験 一階段歩行時の注視行動に関する研究 その1ー	共	2001年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) E-1, pp. 743-744	ンや被験者によるばらつきが大きく、床または天井の遮蔽縁と階段が見える場合は注視が垂直方向に往復する。階段が床遮蔽縁の奥に隠されていて見えない場合は注視が床遮蔽縁に集中し、壁遮蔽縁の奥のみに階段が見える場合には壁遮蔽縁、階段下り口への注視が多い。(著者：上野達哉，岡崎甚幸，鈴木利友，呉怡貞 共同研究につき本人担当部分抽出不可能) 階段歩行時の注視行動を明らかにするために、アイカメラを装着した被験者が地下鉄駅舎出入口の階段を上る実験と下る実験を行った。そして両実験で見られた注視を、注視場所に着目して分類した。階段歩行時の注視には、遮蔽縁付近への注視である斜交い注視、階段の最下段および最上段のエッジ付近への注視である階段上り口・下り口注視、およびコーナー注視、壁面・階段・床面・天井面注視があることが分かった。(著者：鈴木利友，岡崎甚幸，呉怡貞，上野達哉 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
90. 現実及び仮想地下鉄駅舎における探索歩行実験の概要 一現実及び仮想現実地下鉄駅舎での探索歩行における注視と歩行行動 その1ー	共	2001年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) E-1, pp. 751-752	現実及び仮想地下鉄駅舎でアイカメラを装着した被験者による探索歩行実験を行った。現実地下鉄駅舎では、被験者は列車を降りてホーム上のサインで出口4を探し、その出口へと向かった。仮想地下鉄駅舎の実験では、被験者はVRMLによって構築した仮想今出川駅舎内で、キーボードを操作することによって同様に歩いた。仮想地下鉄駅舎におけるサインの可読距離を現実地下鉄駅舎と同じにするために、サインの文字の修正を行った。(著者：中村祐記，鈴木利友，岡崎甚幸，須貝成芳 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
91. 仮想地下鉄駅舎における注視行動の特性 一現実及び仮想現実地下鉄駅舎での探索歩行における注視と歩行行動 その2ー	共	2001年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) E-1, pp. 753-754	仮想地下鉄駅舎における探索歩行時の注視行動を、現実地下鉄駅舎での探索歩行時と比較、考察した。その結果、仮想地下鉄駅舎における探索歩行では、現実地下鉄駅舎と比較して床への注視が多いこと、遮蔽縁付近への斜交い注視が少ないこと、サインへの注視行動が現実空間とは異なること、画面上の注視点は固定しているが画面上の風景が急激に変化することにより相対的に注視対象が変化する現象が生じることが明らかになった。(著者：須貝成芳，鈴木利友，中村祐記，岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
92. 階段上り歩行実験で見られる注視行動の特徴 一階段歩行時の注視行動に関する研究 その2ー	共	2001年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(関東) E-1, pp. 745-746	階段上り歩行実験では、階段上り歩行時であるか平面歩行時であるか、次の踊り場が床遮蔽縁で隠されているかどうか、前方に壁遮蔽縁が見えるかどうかによって、注視行動が変化する。また階段上り歩行時は、歩行者が現在階段のどの場所に立っているのかによって、平面歩行時は直進しながら階段に接近するののか、曲がり角を曲がりながら階段に接近するののかによっても、注視行動が変化する。(著者：呉怡貞，岡崎甚幸，鈴木利友，上野達哉 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
93. 情報交換を伴う仮想迷路探索行動実験(査読付)	共	2001年05月	日本建築学会計画系論文集 No. 543, pp. 155-162	仮想現実空間内で複数の被験者が自由に情報交換しながら探索歩行が可能なマルチユーザ型システムを構築し、実験を行った。実験は4人の同一被験者群に対し、2人ずつが組になり他の組と競争して目的地を探索する競合協調型の探索行動実験と、4人の被験者が協調して目的地を探索する協調型の探索行動実験を行った。これらの実験結果から、実験中にみられる探索行動の種類、ある行動をしている状態から別の行動をしている状態への遷移である状態遷移、情報交換でみられた会話の種類や、実験後の被験者が描画したイメージマップの特徴などについて考察を行った。(著者：鈴木利友，岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
94. 地下鉄駅舎における探索歩行時の注視に関する研究(査読付)	共	2001年05月	日本建築学会計画系論文集 No. 543, pp. 163-170	アイカメラを装着した被験者による地下鉄駅舎内探索歩行実験を行い、屋内迷路探索歩行実験と比較しながら注視行動を分析した。地下鉄駅舎でのサインや天井への注視時間は短時間から長時間まで広く分布する一方、床への注視時間は短時間に集中する。全体の注視時間は屋内迷路と比較して長時間である。またサインへの注視は反復的かつ集中的になる。斜交い注視には壁を遮蔽縁とするものだけでなく、柱、人、階段や天井などを遮蔽縁とするものもある。また経路学習が進むと壁や柱、サインへの注視が減少し、床や天井、人への注視が増加することなどもわかった。(著者：鈴木利友，岡崎甚幸，徳永貴士 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
95. 仮想迷路探索行動実験でみられる行動 一情報交換を伴う探索行動	共	2000年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東北) E-1,	情報交換を伴う探索行動実験中にみられる行動を、その歩行行動や会話に着目して分類した。各被験者

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
に関する研究 その2ー			pp. 1067-1068	の行動は、目的地発見前と発見後、競合協調型の実験と協調型の実験で違いがあるほか、個人差も大きい。目的地発見前は環境や情報交換、発見後は他者との位置関係、内的要因によって行動が遷移することが多い。目的地共同探索行動を多くとる被験者はより積極的に情報交換を行い、実験後に迷路の地図をより正確に描画できる。(著者：鈴木利友、岡崎甚幸、前田昌亮、伊藤明宏 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
96. ネットワークを用いた仮想迷路探索行動実験ー情報交換を伴う探索行動に関する研究 その1ー	共	2000年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東北) E-1, pp. 1065-1066	他の歩行者との情報交換が探索歩行に果たす役割を実証的に解明することを目指し、仮想現実空間内で複数の歩行者が自由に情報交換しながら探索歩行可能な FreeWalk-VRML を開発し、実験を行った。実験は、4人の同一被験者群に対し、2人ずつが組になり他の組と競争して目的地を探索する競合協調型の実験と、4人の被験者が協調して目的地を探索する協調型の探索歩行実験を行った。(著者：前田昌亮、鈴木利友、岡崎甚幸、伊藤明宏 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
97. 協調的情報交換による知識共有プロセスー仮想迷路空間における情報交換を伴う探索歩行に関する研究 その2ー	共	1999年12月	平成11年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集, pp. 153-158	各被験者が最適と考えるゴールに到達するため協調的に情報交換を行い、合意を形成するプロセスを明らかにするため、属性が異なる複数のゴールがある仮想迷路空間で、3人の被験者による探索歩行実験を行った。その結果、協調行動を生じやすくするには、ゴールの選択が容易であることが必要で、そのためには環境条件が単純であること、環境情報を他者に容易に伝えられること、リーダーが存在することが有効であることが分かった。(著者：伊藤明宏、鈴木利友、増田博雄、黒岩将人、岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
98. 廊下及び階段における制限視野歩行実験による行動特性ーアイカメラを用いた通常視野歩行実験との比較を通してー	共	1999年12月	平成11年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集, pp. 73-78	アイカメラを装着して廊下および階段を歩く通常視野実験と、周辺視野を制限するマスクを装着して同じ場所を歩く制限視野実験の結果の比較を行った。その結果、制限視野下では、通常視野下と比較して、階段下り歩行時の所要時間が最も増加すること、視線が下向きになり床と壁の境界付近を捉えるようになること、曲がり角で大回りをすること、アンダーリーチングになること、階段上り歩行時に足を擦らせて歩くことなどが分かった。(著者：黒岩将人、鈴木利友、増田博雄、柳沢和彦、岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
99. 探索歩行時における注視と歩行行動の特性に基づくシミュレーションモデルに関する研究	共	1999年12月	平成11年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集, pp. 79-84	実験用迷路での探索歩行実験における注視と歩行の関係进行分析し、VRML及びJ A V A言語を用いてシミュレーションモデルを構築した。このシミュレーションモデルを実験用迷路に適用し、被験者の注視行動が再現できていることを示した。またこのモデルを別の巨大迷路にも適用し、そこで生じる注視行動の多くの部分を再現できていることを示すとともに、再現できなかった行動についてモデルの改良を行った。(著者：増田博雄、北濱亨、鈴木利友、黒岩将人、柳沢和彦、岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
100. 探索歩行における協調行動の分析ー仮想迷路空間における情報交換を伴う探索歩行に関する研究 その1ー	共	1999年12月	平成11年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集, pp. 147-152	複数の被験者が同時に探索歩行が可能なマルチユーザ型システムを構築した。そして被験者3人のアバタが同じ場所からスタートし、同じゴールに集合する実験を行った。その結果、被験者どうしの情報交換は十字路で行われることが多いこと、仮想現実空間内で相手の表情が確認できないシステムでは、アバタと被験者との対応関係の確認を目的とした情報交換が発生することなどが明らかになった。(著者：鈴木利友、伊藤明宏、増田博雄、黒岩将人、柳沢和彦、岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
101. 地下鉄駅舎の特徴的な場面における注視と歩行行動ー地下鉄駅舎における探索歩行に関する研究 その1ー	共	1999年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国) E-1, pp. 811-812	日常生活空間の一例として、京都市地下鉄烏丸線と東西線の駅舎で探索歩行実験を行い、アイカメラとビデオカメラにより歩行者の注視、頭、身体の動きを録画した。そしてこれらの映像を用いて注視行動解析図を作成し詳細に分析した。本論では地下鉄駅舎における探索歩行に特徴的な場面として、広い空間の探索や、サインへの注視を取り上げ、これらの場面における注視、頭の動きや歩行軌跡について考察を行った。(著者：徳永貴士、中村真悟、伊藤明宏、鈴木利友、岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
102. 仮想地下鉄駅舎内での探索歩行における注視と歩行行動ー地下鉄駅舎における探索歩行に関する研究 その2ー	共	1999年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国) E-1, pp. 813-814	コンピュータによって構築した仮想地下鉄駅舎における探索歩行時の注視行動と歩行行動、さらに両者の関係を明らかにする。注視行動はアイカメラで調査し、歩行行動は自動的に記録できるようにし、この両者を解析する。本論では、降車直後、新しい空

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
103. 仮想および現実地下鉄駅舎における注視行動の比較 — 地下鉄駅舎における探索歩行に関する研究 その3—	共	1999年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(中国) E-1, pp. 815-816	間への進入、階段の発見、階段への進行、階段への進入、Uターンといった、特徴的な場面での注視点の動きと歩行軌跡の特性について考察した。(著者：中村真悟、伊藤明宏、鈴木利友、徳永貴士、岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
104. 地下鉄駅舎内の探索歩行における注視対象・視点移動・頭部運動	共	1999年06月	日本建築学会近畿支部研究報告集 第39号 計画系 pp. 253-256	仮想地下鉄駅舎における探索歩行実験中の注視行動について、現実の地下鉄駅舎で同様に実施した実験結果との比較を行った。仮想地下鉄駅舎における平均注視時間は、現実の地下鉄駅舎の約1.7倍であり、このうちサインを見ているときのみの平均注視時間を比較すると約1.3倍である。誘導サインに対する平均注視時間は大きな差がないが、記名サインに対する平均注視時間は仮想地下鉄駅舎の方が大きい。(著者：鈴木利友、中村真悟、徳永貴士、伊藤明宏、岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
105. 仮想迷路空間における探索歩行時の所要時間・注視回数・注視時間	共	1999年06月	日本建築学会近畿支部研究報告集 第39号 計画系 pp. 249-252	地下鉄駅舎でアイカメラを使った探索歩行実験を行い、注視行動解析図を用いて膨大なデータの体系的記述を行った。そして、従来行った屋内迷路での探索歩行実験と比較しながら考察した。その結果、屋内迷路で見出した視線や頭の移動形式は地下鉄駅舎でも見られること、サインへの注視や斜交い注視は注視時間が長くなること、壁以外によって構成されるエッジに対しても斜交い注視は生じることなどが明らかになった。(著者：伊藤明宏、徳永貴士、鈴木利友、岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 仮想空間における探索歩行と情報交換	共	2003年07月05日	第296回KSP(関西社会心理学)研究会、武庫川女子大学中央キャンパス	アイカメラを用いて仮想迷路空間内の探索歩行実験を行い、所要時間、注視回数、注視時間を調査し、現実迷路空間での行動特性と比較、考察した。現実迷路と同様に、仮想迷路でも試行を重ねるに従って所要時間や注視回数は減少し、注視時間は増加した。現実迷路に比べ、各回の所要時間、注視回数、注視時間はいずれも大きくなった。仮想迷路と現実迷路における注視行動の相違点は、身体の操作性と歩行速度の相違によると考えられる。(著者：黒岩将人、中村真悟、伊藤明宏、鈴木利友、増田博雄、岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)
<b>2. 学会発表</b>				
1. 主成分分析を用いた手づくりの棧瓦のキララインの平面あてはめと座標変換	共	2018年09月06日	日本建築学会大会(東北)、東北大学川内北キャンパス	学術論文の項を参照(著者：鈴木利友、井上年和 講演者として発表)
2. いらかのなみ —手づくりの曲線に基づく建築設計を目指して—	共	2018年09月06日	日本建築学会大会(東北)、東北大学川内北キャンパス	学術論文の項を参照(著者：鈴木利友、井上年和 講演者として発表)
3. 3Dレーザースキャナを用いた手づくりの棧瓦の計測	共	2018年03月16日	2018年度精密工学会春季大会、中央大学後楽園キャンパス	学術論文の項を参照(著者：鈴木利友、井上年和、鈴木 晶、三浦憲二郎 講演者として発表)
4. 木造住宅における縦樋のない防水バルコニー	単	2017年08月31日	日本建築学会大会(中国)、広島工業大学	学術論文の項を参照
5. 対数型美的曲線を応用した屋根の設計	共	2016年09月07日	2016年度精密工学会秋季大会、茨城大学水戸キャンパス	学術論文の項を参照(著者：鈴木利友、鈴木晶、三浦憲二郎 講演者として発表)
6. 対数型美的曲線を応用した木造住宅の屋根	共	2016年09月07日	2016年度精密工学会秋季大会、茨城大学水戸キャンパス	学術論文の項を参照(著者：鈴木利友、鈴木晶、三浦憲二郎 発表者としてポスター発表)
7. 森具の家 —木々に囲まれた緩傾斜地を覆う切妻屋根とその下に展開する不均質な空間—	単	2016年08月25日	日本建築学会大会(九州)、福岡大学七隈キャンパス	学術論文の項を参照

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
8. 発散型美的曲線を用いた軒先曲線の決定 - 木造住宅の切妻屋根の設計を事例として -	単	2016年08月24日	日本建築学会大会(九州)、福岡大学七隈キャンパス	学術論文の項を参照
9. APPLICATION OF LOG-AESTHETIC CURVES TO THE EAVES OF A WOODEN HOUSE	単	2016年07月17日	4th International Conference on Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan.	学術論文の項を参照
10. トルコ地中海地方の山間に位置する2つの傾斜地集落の比較 - アンタルヤ県ヤルバシチュチャンドウル村およびメルスィン県ウズンカシュ村における調査を通して -	単	2014年09月12日	日本建築学会大会(近畿)、神戸大学鶴甲第1キャンパス	学術論文の項を参照
11. トルコ東アナトリア地方の山間の傾斜地に位置する2つの牧畜集落の比較 - エルズルム県コナクル村およびアール県ベスレル村における調査を通して -	単	2013年08月30日	日本建築学会大会(北海道)、北海道大学札幌キャンパス	学術論文の項を参照
12. トルコ黒海地方の山間に位置する傾斜地集落の景観と地域社会の形成に関する空間的考察 - カラビュック県ボルクス村およびアマスヤ県チデムリク村における調査を通して -	共	2012年09月12日	日本建築学会大会(東海)、名古屋大学東山キャンパス	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 岡崎甚幸 講演者として発表)
13. SPATIAL COMPOSITION OF THREE INTERMOUNTAIN SETTLEMENTS LOCATED ON SLOPES IN NORTHERN AND CENTRAL TURKEY	共	2012年07月14日	Archi-Cultural Translations through the Silkroad, 2nd International Conference, Mukogawa Women's University, Nishinomiya, Japan	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 岡崎甚幸 講演者として発表)
14. 旧甲子園ホテルの階段がもつ空間特性の考察 - 甲子園会館および建築スタジオにおける階段歩行時の注視に関する研究 その7 -	共	2011年08月25日	日本建築学会大会(関東)、早稲田大学早稲田キャンパス	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 岡崎甚幸 講演者として発表)
15. EYE MOVEMENT ANALYSIS IN MODERN ARCHITECTURE WITH JAPANESE TRADITIONAL SPATIAL STRUCTURE	共	2011年03月17日	Archi-Cultural Translations through the Silkroad, International Conference 16-18 March 2011, Bahcesehir University, Istanbul, Turkey	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 岡崎甚幸, 植村麻衣 講演者として発表)
16. 階段下り歩行実験における注視場所の変化 - 甲子園会館および建築スタジオにおける階段歩行時の注視に関する研究 その5 -	共	2010年09月09日	日本建築学会大会(北陸)、富山大学五福キャンパス	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 植村麻衣, 平野麻衣子, 岡崎甚幸 講演者として発表)
17. 階段歩行時における注視点の移動方向分布 - 甲子園会館および建築スタジオにおける階段歩行時の注視に関する研究 その4 -	共	2009年08月26日	日本建築学会大会(東北)、東北学院大学泉キャンパス	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 植村麻衣, 平野麻衣子, 岡崎甚幸 講演者として発表)
18. 階段を歩く際に生じる注視点の移動方向の変化	共	2009年06月15日	電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会、北海道大学学術交流会館	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 植村麻衣, 平野麻衣子, 岡崎甚幸 講演者として発表)
19. 3種類の階段におけるアイカメラを用いた歩行実験 - 甲子園会館および建築スタジオにおける階段歩行時の注視に関する研究 その1 -	共	2008年09月18日	日本建築学会大会(中国)、広島大学東広島キャンパス	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 植村麻衣, 平野麻衣子, 岡崎甚幸 講演者として発表)
20. 3種類の階段を歩く際の注視行動の比較	共	2008年08月06日	電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会、鹿児島大学郡元キャンパス	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 植村麻衣, 平野麻衣子, 岡崎甚幸 講演者として発表)
21. 甲子園会館(旧甲子園ホテル)における歩行時の注視行動の特性	共	2007年08月30日	日本建築学会大会(九州)、福岡大学七隈キャンパス	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 岡崎甚幸 講演者として発表)
22. 駅前市街地における仮設サインとアイカメラをもちいた探索歩行実験 - 街路における探索歩行時の注視に関する研究 その1 -	共	2004年08月29日	日本建築学会大会(北海道)、北海道大学札幌キャンパス	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 岡崎甚幸, 池應れいか 講演者として発表)
23. 集団の探索行動における会話の類型化 - 情報交換を伴う探索行動に関する研究 その6 -	共	2003年09月06日	日本建築学会大会(東海)、中部大学	学術論文の項を参照 (著者: 鈴木利友, 岡崎甚幸, 天島秀秋 講演者として発表)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
24. 仮想迷路における集団の探索行動実験で見られた会話の分析	共	2003年05月09日	電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会、東京大学駒場リサーチキャンパス	学術論文の項を参照（著者：鈴木利友，岡崎甚幸 講演者として発表）
25. 8人での探索行動実験の概要および誘導に用いられた言葉—情報交換を伴う探索行動に関する研究その3—	共	2002年08月02日	日本建築学会大会(北陸)、金沢工業大学	学術論文の項を参照（著者：鈴木利友，岡崎甚幸，天島秀秋 講演者として発表）
26. 迷路空間における移動方法と注視行動の関係に関する研究—能動的探索歩行と車椅子による受動的移動の比較を通して—	共	2002年05月10日	電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会、東京大学駒場リサーチキャンパス	学術論文の項を参照（著者：鈴木利友，須貝成芳，岡崎甚幸 講演者として発表）
27. Perception and Behavior in Architectural Space	共	2001年10月18日	第2回デジタルシティ京都会議シンポジウムデモンストレーション、京都リサーチパーク	「群集歩行シミュレーションモデル」「情報交換を伴う仮想迷路探索行動実験」「仮想・現実地下鉄駅舎での注視と歩行の研究」「迷路および階段歩行時の注視と歩行の研究」「歩行時における周辺視の役割」「帰納論理プログラミングを用いた空間構成過程の分析」「露地：アイカメラを用いた日本の空間の分析」「雪舟：日本絵画の知覚」の各テーマについて、ポスター発表を行った。（発表者：京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室「情報交換を伴う仮想迷路探索行動実験」「仮想・現実地下鉄駅舎での注視と歩行の研究」「迷路および階段歩行時の注視と歩行の研究」の各テーマを担当）
28. 地下鉄駅舎出入口におけるアイカメラを用いた階段歩行実験—階段歩行時の注視行動に関する研究その1—	共	2001年09月22日	日本建築学会大会(関東)、東京大学本郷キャンパス	学術論文の項を参照（著者：鈴木利友，岡崎甚幸，吳怡貞，上野達哉 講演者として発表）
29. 仮想迷路探索行動実験でみられる行動—情報交換を伴う探索行動に関する研究その2—	共	2000年09月08日	日本建築学会大会(東北)、日本大学東北高等学校	学術論文の項を参照（著者：鈴木利友，岡崎甚幸，前田昌亮，伊藤明宏 講演者として発表）
30. 探索歩行における協調行動の分析—仮想迷路空間における情報交換を伴う探索歩行に関する研究その1—	共	1999年12月11日	平成11年度日本人間工学会関西支部大会、大阪大学人間科学部	学術論文の項を参照（著者：鈴木利友，伊藤明宏，増田博雄，黒岩将人，柳沢和彦，岡崎甚幸 講演者として発表）
31. 仮想および現実地下鉄駅舎における注視行動の比較—地下鉄駅舎における探索歩行に関する研究その3—	共	1999年09月19日	日本建築学会大会(中国)、広島大学東広島キャンパス	学術論文の項を参照（著者：鈴木利友，中村真悟，徳永貴士，伊藤明宏，岡崎甚幸 講演者として発表）
<b>3. 総説</b>				
1. 建築と人間行動のかかわりを探る	単	2010年02月	リビエール Vol. 24, p. 14	建築と行動のかかわりを探る研究としてこれまで進めてきた、アイカメラを用いて視覚と歩行のかかわりを探る実験的研究、マルチユーザ型仮想空間における集団行動、言語を通して、人の空間認知、そして建築のあり方を探る研究について概説した。
2. 建築と人間行動の関係を研究して	単	2008年09月	2008年度日本建築学会大会(中国) 建築計画部門研究懇談会資料「建築計画学の新しい認識とその方法—建築デザインの革新の時代に」 pp. 39-42	前年の「アイカメラとマルチユーザ型仮想現実空間を用いた実験的研究」で述べた一連の研究が、建築学のみならず、情報学や社会心理学、認知心理学といったさまざまな分野の研究者、文献と密接に関係していながら進展してきたことを解説した。
3. 先生の本棚 生態学的視覚論—ヒトの知覚世界を探る—	単	2007年11月	リビエール Vol. 20, p. 16	科学、技術、芸術を理解する上で基礎となる教養書として、J. J. Gibson著「生態学的視覚論」を紹介した。
4. アイカメラとマルチユーザ型仮想現実空間を用いた実験的研究	単	2007年08月	2007年度日本建築学会大会(九州) 建築計画部門研究懇談会資料「建築計画研究のイノベーション—建築計画研究者の第三世代マッピング」 pp. 44-45	空間をとらえる視覚、空間を表現する言語と、生活空間がどのようにかかわっているのかを明らかにすることは、人間にとってふさわしい生活空間を探る上での重要な手がかりとなる。視覚、言語と生活空間とのかかわりを調べるために、アイカメラとマルチユーザ型仮想現実空間を用いて進めてきた一連の実験的研究を紹介した。
5. 建築・都市計画における人間行動の分析に関する研究部会	共	2003年06月	シミュレーション&ゲーミング, Vol. 13, No. 1, pp. 110-111	ゲーミング・シミュレーションの手法を活用し、生活空間における人間行動、特に探索行動の特性を実験的に調査した。これにより、建築・都市空間を設計、評価するための知見を得ることを目指した。またゲーミング・シミュレーションを用いて明らかにした人間行動が、現実空間における人間行動とどのような関係にあるのかについても調査した。（著者：岡崎甚幸，鈴木利友 共同研究につき本人担当部分抽出不可能）
6. 3D都市シミュレーション環境FreeWalk	共	2001年12月	3D都市シミュレーション環境FreeWalk, 情報処理学会シンポジウムシリーズ データベースとWeb情報システム	人間行動を分析するシミュレーションとしてFreeWalkを開発し、迷路探索シミュレーション、都市シミュレーションを行った。現実世界と仮想世界の差異について検討するため、探索歩行時における注視行動の比較、多人数会話の比較等を行い、両者の差異を

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3. 総説</b>				
			に関するシンポジウム(DBWeb2001), No. 17, pp. 313-322	明らかにした。さらに仮想世界における人間とエージェントのインタラクションを分析するための実験を行い、エージェントが人間関係に与える影響の分析を行った。(著者:中西英之, 石田亨, 鈴木利友, 岡崎甚幸 共同研究につき本人担当部分抽出不可)
<b>4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績</b>				
1. 森具の家	共	2015年12月	兵庫県西宮市	木々に囲まれた段丘上の緩傾斜地に建てられた2階建の戸建住宅である。比較的複雑な形状をもつ平面を、直線と美的曲線を組み合わせた1枚の切妻屋根の下に収めた。木々の緑が映えるよう、外観はできる限り無彩色でまとめた。敷地形状と平面計画の制約により間崩れとなっているが、西側はルーバー、東側は雁行により、違和感を感じさせないようにした。1階はバリアフリーに配慮し日常生活が完結可能な空間、2階は住まい手とその生活の変化に対応可能な空間とした。壁と天井は、多機能けい酸カルシウム板(モイス)を使用し、無塗装とした。内装材や下駄箱、本棚には、間伐事業で伐採された杉、ヒノキを最大限使用し、間伐材の利用促進を図った。玄関には、歌川広重の東海道五十三次(保永堂版)をモチーフとしたステンドグラスを設けた。(建築設計:鈴木利友 構造設計:エヌ・ディー・エヌ一級建築士事務所 監理:ウイン建築設計事務所 施工:分離発注)
2. ペトラ博物館 基本計画	共	2012年10月～	ヨルダン・ペトラ	ヨルダン王国の世界遺産であるペトラに建設する博物館の基本計画。2013年は博物館の環境評価に際して、前回構想された案を2,300㎡に縮小し、同時にデザインをさらに検討し、前回の構想を継承する案と、それ以外の3案を提案した。 (設計:岡崎甚幸, 天島秀秋, 本郷佑奈, 山口彩, 伊勢文音, 杉浦徳利, 猪股圭佑, 森本順子, 鈴木利友 CG透視図の作成を担当)
3. パーミヤーン博物館 基本計画	共	2012年06月～	アフガニスタン・パーミヤーン	ユネスコからの委託を受け、東京文化財研究所と共同で企画。世界遺産パーミヤーン(アフガニスタン)における考古学資料等の展示・保管・研究を行う博物館と、地域住民に開かれたカルチャーセンターの設計(設計:武庫川女子大学建築都市デザインスタジオ 案の検討、CG透視図の作成を担当)
4. 京都府総合資料館(仮称)設計工事基本・実施業務に係る公募型設計競技	共	2011年06月	京都市左京区	総合資料館と京都府立大学(文学部・図書館)の機能連携による新総合資料館の整備を行うことにより、文化・環境・学術の交流・発信拠点の整備を図ることを目的にした公募型設計競技に、武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオとして応募した。(設計:武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ、案の作成、CG透視図の作成を担当)
5. 武庫川女子大学建築学科・大学院建築学専攻 建築スタジオ	共	2007年03月	兵庫県西宮市	武庫川女子大学建築学科・大学院建築学専攻のための新校舎。隣接する遠藤新設計の旧甲子園ホテル(現甲子園会館、昭和5年竣工)の水平の庇やボーダータイルを継承しつつ、現代的なデザインと最先端の技術を駆使し、互いに調和したキャンパスを構成する。各学年ごとに、一人一台の製図機とパソコンがあるスタジオを設け、廊下は全学生の作品を展示できるギャラリーとした。全学生が作品を発表し講評を受ける講評室、および最先端の設備を備えた環境実験室、構造実験室、施工実習室などもある。(設計:日建設計、武庫川女子大学建築学科、同設置準備委員会、同設置準備室、建築学科のメンバーとして監修に参加)
6. 武庫川女子大学甲子園会館 改修	共	2006年03月	兵庫県西宮市	武庫川女子大学建築学科・大学院建築学専攻開設に伴い行われた、旧甲子園ホテルの改修工事。遠藤新の設計により昭和5年に竣工して以来、3回目の大規模改修工事であった。かつて食堂や客室として使われていた部分を、スタジオ、食堂、講義室、図書室などに全面的に改修することにより、この上ない建築教育の場として生まれ変わらせることができた(設計:武庫川女子大学建築学科設置準備委員会、同設置準備室、建築学科設置準備委員会、準備室のメンバーとして設計に参加)
7. 武庫川女子大学附属中学・高等学校芸術館改修	共	2005年03月	兵庫県西宮市	かつてこの地にあった、鳴尾競馬場の建物の一部を転用して使われ続けてきた校舎の改修。文化財として、建設当初の状況への復元をはかるとともに、書道、音楽、美術の授業を行うための教育空間としての再生を行った。(設計:武庫川女子大学生活環境学科岡崎研究室 CADパースや動画を用いた設計の検討等に参加)
8. 福井県南越地区養護学校	共	2005年03月	福井県越前市	福井県南越地方から通学する養護児童に対し、知的障害、肢体不自由、病弱および重複障害のいずれの

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
-------------	---------	-----------	-------------------	----

<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
9. 武庫川女子大学学術研究交流館	共	2005年03月	兵庫県西宮市	障害にも対応する教育課程、幼稚園から高等部までの一貫教育、地場産業との連携教育、特別支援教育に関する地域センターとしての役割などをその基本性格とする。出来るだけ多くの県産材を使用して木造化すること、こどもにやさしく開放的な平屋建ての校舎とすることを基本方針とし、設計から開校の各段階で教育関係者・木材関係者・建築関係者のコラボレーションを通して実現に至った。（設計：福井県建築設計監理協会、京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室 基本設計段階において、CADパースを用いた検討等に参加）
10. 武庫川女子大学健康科学館	共	2004年08月	兵庫県西宮市	「関西文化研究センター」「子ども発達科学研究センター」の研究拠点として建設された、地上5階建ての建物である。コンクリート打ち放し仕上げであり、パネル割りにあわせ、全て900mm×1800mmの基準寸法の整数倍、もしくは分割によって設計されている。1階には伝統的な石組の庭「竹堂庭」に面した大会議室があり、研究集会などが行われる。1階は廊下も含めて展示空間としても利用できる。（設計：武庫川女子大学生生活環境学科岡崎研究室 CADパースや動画をを用いた設計の検討等に参加）
11. 京都大学桂キャンパス総合研究棟IV	共	2004年03月	京都市西京区	管理栄養士養成の拠点として建設された校舎。100食分の給食を提供できる給食経営管理実習室や、臨床栄養学実習室などを備えている。内外の壁面や床、天井は白色を基調とした明るい空間とし、女子学生が引き立つようなデザインとしている。屋上や壁面は可能な限り緑化している。（設計：武庫川女子大学生生活環境学科岡崎研究室 CADパースを用いた設計の検討等に参加）
12. 武庫川女子大学クリステリア3階改装	共	2004年03月	兵庫県西宮市	京都大学大学院工学研究科建築学専攻の新校舎。建物全体を、小さなボリュームの集合体とすることにより、各居室が眺望をもち、太陽や通風、植栽と有機的に交わることができる空間構成とし、また周辺への圧迫感を大幅に軽減した。外部空間は、桂キャンパスの全体計画で合意されていた調和の取れた色彩計画を満足するために、マスタープランのテラスと赤茶色のタイルの表現をそのまま踏襲した。一方、中庭や内部空間は、無彩色と素材そのものの色を表現した。エントランスホールやギャラリーの天井はPCの素材をそのまま活かした。（設計：京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室 基本設計段階の検討等に参加）
13. 真宗寺客殿及び庫裏	共	2002年08月	福井県鯖江市	武庫川女子大学の福利厚生棟であるクリステリアの3階に、コンビニエンスストア「ファミリーマート」が入ることに伴う改装計画。壁、柱、床、天井から家具に至るまで白色を基調とした明るい空間とし、女子学生が引き立つようなデザインとしている。（設計：武庫川女子大学生生活環境学科岡崎研究室 CADパースを用いた設計の検討等に参加）
1990年竣工の草の実保育園、1962年竣工の本堂とともに、一つの中庭空間を構成するように設計された。門徒が利用する空間である客殿と、住職の住居である庫裏が連続している。保育園と同じく木造で深い庇をもち、雁行型の室配置をもつ。また開放的な廊下や大スパンを実現するため、鉄板をサンドイッチした集成材や、ガラス面の大きなサッシを駆使し、日本の伝統的な空間を継承しつつ、現代のデザインと技術を駆使した建築空間となっている。（設計者：京都大学大学院工学研究科生活空間学専攻岡崎研究室 主に庫裏の基本設計に参加）				

**5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等**

1. 曲線の定式化と建築設計への応用	単	2018年09月10日	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所 短期共同研究「離散微分幾何の新展開 意匠設計から建築設計へ」公開講演、九州大学伊都キャンパス	対数型美的曲線の建築設計への応用と、美しいとされる曲線の定式化について、これまで講演者が行ってきた、あるいは現在進行中の研究を紹介した。前者は (A) 木造住宅の屋根の設計、施工への対数型美的曲線の応用 (B) 建築における曲線の印象評価による比較 (C) 対数型美的曲線の応用の舗装デザインへの応用 を、後者は (D) 手づくりの棧瓦のキーラインの定式化 について説明した。
2. 離散微分幾何の新展開 意匠設計から建築設計へ	共	2018年09月10日～13日	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所 短期共同研究、九州大学伊都キャンパス	当該共同研究のメンバーとして、2018年9月10日～12日の3日間参加した。対数型美的曲線の建築設計への応用と、美しいとされる曲線の定式化について講演を行うとともに、精密工学、数学、建築学の研究者の講演も聴講した上で、曲線の定式化や膜構造の設計等について参加者と議論を行った。（研究代表者：井ノ口順一 主に曲線の定式化と建築設計への応用に関する講演と議論に参加）

**6. 研究費の取得状況**

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 日本らしい景観を構成する曲線セグメントの定式化	単	2017年04月 ～2021年03月	日本学術振興会 科学 研究費助成事業（学術 研究助成基金助成金） 基盤研究(C)	研究代表者 日本独自の景観を構成し、美しいと評価されてきた曲線セグメント（いわゆる、日本らしい景観を構成する曲線セグメント）を計測し、数学的に記述可能な曲線として適切に定式化する手法を確立する。具体的には、棧瓦等の小スケールの事例、風景面に描かれている風景等の大スケールの事例を対象とし、両者にみられる曲線セグメントの解析手法を解明する。また、屋根のそり、むくりといった、棧瓦と風景画の中間に位置する中スケールの曲線セグメントについても同様の定式化を試みる。これにより、日本らしい景観を構成する曲線セグメントの全体像の解明を行い、CADで容易に生成できるようにする。これにより、いわゆる日本らしい景観を構成してきた曲線セグメントを、現代の建築設計、さらには都市、ランドスケープの設計に自由に活用できるようになることを目指す。
2. 傾斜地にある山間集落の空間構成に関する研究	単	2012年07月 ～2013年03月	武庫川女子大学 科学 研究費補助金学内奨励 金	トルコ東部の東アナトリア地方、東南アナトリア地方にある4つの山間集落（エルズルム県コナクル村、アール県ベスレル村、ビトリス県チェブレ村、マルディン県アラン村）を選定し、インターネット等による資料調査、および現地調査を行った。その結果を、平成23年に行ったトルコ黒海地方、中央アナトリア地方の3つの集落における調査結果と比較しつつ考察した。その結果、各集落の空間構成や、集落を構成する家屋の共通点と相違点を明らかにした。集落を構成する家屋の特徴は、集落によって異なる一方で、各集落の中ではおおむね統一されているため、それぞれの集落ごとに統一感をもつ特徴的な景観が形成されていることが明らかになった。
3. マルチユーザ型仮想建築空間で行う対話を伴う群集探索行動における空間と発話の関係	共	2004年04月 ～2006年03月	日本学術振興会 科学 研究費補助金 基盤研 究(C)(2)	研究分担者 安全で快適な建築や都市を設計、評価する上で重要な、空間と発話の関係に関する知見を得るため、以下の研究を行った。 1. 仮想空間として再現する建築・都市空間の選定および予備実験：川崎市中原区武蔵小杉駅前を選定し、再現に先立って、単独の被験者がマイクやアイカメラを装着し、区役所への経路を探索する予備実験を実施した。被験者の発話や注視行動、実験後のヒアリング結果などから、この地域の道がわかりにくい要因などを明らかにした。 2. 仮想空間の構築：選定した空間を、VRML言語で記述した壁面、路面、階段によってモデリングした。また、現地で撮影した建物等の壁面の写真を合成しテクスチャを作成し貼り付けた。 3. 構築した仮想空間における集団の探索行動実験構築した仮想空間の中で、集団が協力しあいながら、駅から目的地を探索する実験を行った。実験はマルチユーザ型仮想空間システムであるFreeWalkで行った。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年07月～	情報処理学会
2. 2016年05月～	精密工学会
3. 2011年01月～	電子情報通信学会
4. 2008年03月～2010年05月	日本建築学会 環境技術と建築・街並み・地域のあり方特別調査委員会
5. 2003年01月～	日本人間工学会
6. 2002年08月～	日本シミュレーション&ゲーミング学会
7. 1999年06月～	日本建築学会